平成２９年度
シ　ラ　バ　ス
〔　３　学　年　〕



北海道枝幸高等学校

シラバス目次

３学年必修（３科目）

現 代 文 Ｂ …… ２ページ
倫　　理 …… ４ページ
体　　育 …… ６ページ
コミュニケーション英語Ⅲ …… ８ページ

３学年社会科選択（２科目）

世 界 史 Ｂ ……１０ページ
地　理　Ｂ ……１２ページ

３学年選択（Ⅰ群～Ⅴ群）

化 学 研 究（選択Ⅰ） ……１４ページ
生涯スポーツ（選択Ⅰ） ……１６ページ
英 語 購 読（選択Ⅰ） ……１８ページ
情 報 処 理（選択Ⅰ） ……２０ページ
社 会 教 養（選択Ⅱ） ……２６ページ
物 理 研 究（選択Ⅱ） ……２８ページ
生 物 研 究（選択Ⅱ） ……３０ページ
簿　　記（選択Ⅱ・Ⅴ） ……３２ページ
国 語 一 般（選択Ⅲ） ……３６ページ
科学と人間生活（選択Ⅲ） ……３８ページ
子どもの発達と保育（選択Ⅲ） ……４０ページ
国 語 表 現（選択Ⅳ） ……４２ページ
数　学　Ⅲ（選択Ⅳ・Ⅴ） ……４４ページ
数学研究Ⅰ（選択Ⅳ） ……４６ページ
音　楽　Ⅱ（選択Ⅳ） ……４８ページ
地 理 研 究（選択Ⅴ） ……５０ページ
数学研究Ⅱ（選択Ⅴ） ……５２ページ

平成29年度　学年別教育課程表

	1　年	2　年	3　年				
1	国語総合	現代文B	現代文B				
2							
3		古典A	世界史B		地理B		
4							
5	地理A	世界史A					
6							
7	政治・経済	数学Ⅱ	倫理				
8							
9	数学Ⅰ		体育				
10							
11		数学B	コミュニケーション英語Ⅲ				
12	数学A						
13		物理基礎					
14	化学基礎						
15		生物基礎	選択1	化学研究	生涯スポーツ	英語講読	情報処理
16	体育						
17							
18	保健	体育	選択2	社会教養	物理研究	生物研究	簿記(*5)
19	音楽Ⅰ						
20		保健					
21	コミュニケーション英語Ⅰ	コミュニケーション英語Ⅱ	選択3	国語一般	科学と人間生活	子どもの発達と保育	
22							
23							
24			選択4	国語表現	数学Ⅲ(*1)	数学研究(*3)	音楽Ⅱ
25	家庭総合	英語表現Ⅰ					
26							
27	社会と情報	家庭総合	選択5	地理研究	数学Ⅲ(*2)	数学研究(*4)	簿記(*6)
28							
29	総合	総合	総合				
30	LHR	LHR	LHR				

「数学Ⅲ」は(*1)3単位、(*2)2単位の併せて5単位を履修

「数学研究」は(*3)3単位、(*4)2単位の併せて5単位を履修

「簿記」は(*5)3単位、(*6)2単位の併せて5単位を履修

教科	科目	学年	履修形態	単位数	その他
国語	現代文Ｂ	３	必修	２	

使用教科書	東京書籍「新編現代文Ｂ」	使用副教材	新編現代文Ｂ 学習課題ノート
科目の目標	近代以降の様々な文章を目的に応じて幅広く読んだり、適切に表現したりして自分の考えを深め発展させていくとともに、国語を尊重してその向上をはかる。		
学習の到達目標	１　文章についての発展的な知識を使いこなし、小論文が書ける。 ２　多面的なものの見方を身に付け、自分の意見をより深めることができる。 ３　他者の意見を尊重しながら建設的な話し合いをし、まとめたことが他者によく伝わるよう発表できる。		
学習の進め方	・語句と漢字の読みと意味を確かめ、正しく書けるよう練習する。 ・文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読む。 ・話題について様々な角度から検討し、相手の立場や考えを尊重して話し合う。		
学習の留意点	・授業規律をしっかりと守り、集中して積極的に授業に参加すること。 ・ノートを活用できるよう板書を書き写し、提出物は期限までに必ず提出すること。 ・教科担任の説明と指示・級友の発表を集中して聞くこと。 ・意見発表・グループ活動・感想文等の執筆には真剣に取組むこと。		

評価規準	観点別	関心･意欲･態度	話す･聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
	評価の観点	国語で理解し表現する力を進んで高めるとともに、自己の考えを言葉や文章で表現するため、主体的に活動しようとしている。	目的や場に応じて効果的に話し的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。	相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。	近代以降の文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。
	比重	10%	20%	30%	20%	20%
	評価方法	○関心・意欲・態度・・・授業・課題に主体的に取組む姿勢などを評価する。 ○話す・聴く能力・・・・グループ活動や発表などの日々の授業での取組で評価する。 ○書く能力・・・・・・・定期考査や提出物・課題などの日々の授業での取組で評価する。 ○読む能力・・・・・・・定期考査や提出物・課題などの日々の授業での取組で評価する。 ○知識・理解・・・・・・定期考査や提出物・課題などの日々の授業での取組で評価する。				

単元	頁	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	定期考査 前期 中間	定期考査 前期 期末	定期考査 後期 中間	定期考査 後期 期末	夏休明け	冬休明け
論理的な文章を書こう		■												■					
評論　最初のペンギン	194	■	■											■					
小説　カンガルー日和	229		■											■					
随想　カフェの開店準備	242			■	■										■				
評論　モードの論理	279				■	■									■	■			
小説　葉桜と魔笛	290					■	■									■			
詩歌　竹	256						■	■									■		
小説　こころ	136								■	■	■						■		

単元名と単元内容	配当時間	学習内容・学習のポイント	評価規準					備考
			a	b	c	d	e	(到達目標・評価の観点・留意点など)
論理的な文章を書こう	5	・原稿用紙の使い方を理解する。 ・構成を考えた文章を書く。	○		○		○	原稿用紙の使い方を理解し、構成を考えた文章を書くことができる。
評論　最初のペンギン	4	・論理展開に注意して評論を読み、扱われている問題を正確に捉える。 ・論理の構成を工夫し、自分の考えを文章にまとめる。	○		○	○	○	・論理の展開を正確に読み取り、筆者の主張や意見を理解している。 ・論理の構成を工夫し、自分の考えを文章にまとめられる。
小説　カンガルー日和	4	作者独特の比喩表現に込められた作者の思いを読み取る。	○	○		○		・登場人物の人間像と、その心理変化を理解している。 「カンガルー日和」という題名の効果について、他人と意見交換ができる。
随想　カフェの開店準備	4	・ごく平凡な日常生活に対する筆者の観察の細かさを自分の体験と比較して理解する。 ・「目的」と「行為」という言葉に対する筆者の考えを理解する。	○		○	○	○	・語句の意味や用法を理解している。 ・筆者の「生」に関する考えや「目的」と「行動」の意味を理解し、それらに対する自分の考えを文章にまとめられる。
評論　モードの論理	6	・「モード」について着る側の論理と売る側の論理を理解する。 ・人間が自分の身体をどう捉えているかを理解する。	○		○	○	○	・難解な用語の意味を的確に理解している。 ・論理の展開を正確に読み取り、筆者の主張や意見を理解している。 ・論理の構成を工夫し、自分の考えを文章にまとめられる。
小説　葉桜と魔笛	5	・小説の構成を理解すると同時に情景の展開も理解する。 ・「私」の言動をもとにして「私」の心理と妹の心理を理解する。	○	○		○	○	・明治時代の家庭状況、日本海海戦など歴史的事実を理解している。 ・小説における比喩や象徴的な表現の仕方を理解している。 ・物語の展開を正確に捉え、「私」の心理と妹の心理を理解している。
詩歌　竹	4	・反復法や脚韻などの詩の修辞技法が持つ効果を理解する。 ・作者が竹に込めた思いを理解する。	○			○	○	・反復法、脚韻といった詩の修辞技巧や言葉の使い方を理解している。 ・第一連、第二連の情景を正確に捉え、作者が竹の姿に込めている思いを理解している。
小説　こころ	22	・場面ごとの登場人物の心情とその変化、登場人物の人物像を読み取り、作品の主題を考える。 ・比喩表現など表現上の工夫を読み取り、その効果を考える。	○	○	○	○		・小説における比喩や象徴的な表現の仕方を理解している。 ・明治時代の文化や時代背景を理解している。 ・「私」とKの関係、物語の展開とそれぞれの心理と人間性を的確に読み取り、「私」の取った行動の真理を理解している。

評価規準：a 関心・意欲・態度　b 話す・聞く能力　c 書く能力　d 読む能力　e 知識・理解

教科	科目	学年	履修形態	単位数	その他
公民	倫理	3	必修	2	

使用教科書	実教出版「高校倫理」	使用副教材	
科目の目標	人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解と思索を深めさせるとともに、人格の形成に努める実践的意欲を高め、他者と共に生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。		
学習の到達目標	先人の考え方などを理解し、それらが自分の生活でどのように生かせるかを考える意識を身に付けさせる。		
学習の進め方	教科書、資料、プリントを使い、重要事項を中心に進めていきます。グループワーク等で自分の考え方をまとめたり発言したりする機会もあります。授業で扱えない分野はプリントや課題で対応します。		
学習の留意点	必ず黒板の内容はノートに書き写し、教員の話をしっかり聞くこと。また、説明がわからないときや、漢字が読めないときなど、困った時は遠慮せずに質問すること。わからないままにしておくことは、授業についていけなくなる原因になる。		

評価規準		関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
	評価の観点	先人の基本的な考えについて理解することを通して、新しい学びを吸収し、自分の価値観との違いなどについて考えようとしている。	先人の基本的な考えについて、自分の考えや意見を分かりやすく伝えたり、まとめたりしている。	先人の理念の学習を通して、知識や情報、自分の考えを的確にまとめ学習に活用している。	先人の基本的な考えや各時代での制度や仕組みを他の思想と関連付けながら理解し、身に付ける。
	比重	15%	15%	10%	60%
	評価方法	○関心・意欲・態度・・・課題に取組む姿勢、レポートやノートテイキング、日々の授業の中で評価する。 ○思考・判断・表現・・・定期考査や日々の授業での取組、ノートやワークシート等での取組で評価する。 ○技能・・・・・・・・・定期考査や日々の授業での取組、グループ発表などで評価する。 ○知識・理解・・・・・・定期考査や日々の学習課題で評価する			

単元	頁	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	定期考査 前期 中間	定期考査 前期 期末	定期考査 後期 中間	定期考査 後期 期末
第１編　青年期の課題と自己形成		■												■			
第１節　青年期の意義	6	■												■			
第２節　青年期の課題	12	■												■			
第２章　人間としての自覚														■			
第１節　ギリシア思想	20	■												■			
第２節　キリスト教	36		■											■			
第３節　イスラーム	46		■											■			
第４節　仏教	50		■												■		
第５節　中国思想	62			■											■		
第３章　日本人としての自覚				■											■		
第１節　古代日本人の思想	74			■											■		
第２節　日本の仏教思想	80				■										■		
第３節　近世日本の思想	92				■										■		
第４節　西洋思想の受容と展開	104				■										■		
第２編　現代と倫理																■	
第１章　現代に生きる人間の倫理																■	
第１節　人間の尊厳	124					■										■	
第２節　科学・技術と人間	132						■									■	
第３節　民主社会と自由の実現	138						■									■	
第４節　社会と個人	150						■									■	
第５節　人間への新たな問い	166							■								■	
第６節　社会参加と幸福	174							■									■
第２章　現代の諸課題と倫理																	■
第１節　生命の倫理	182								■								■
第２節　環境の倫理	188								■								■
第３節　家族の課題	192								■								■
第４節　地域社会の課題	195									■							■
第５節　高度情報化社会の課題	196									■							■
第６節　文化と宗教の課題	199										■						■
第７節　国際平和と人類の福祉の課題	202										■						■

単元名と単元内容	配当時間	学習内容・学習のポイント	評価規準				備考
			a	b	c	d	(到達目標・評価の観点・留意点など)
第１編　青年期の課題と人間の自覚 第１章　青年期の課題と自己形成 第１節　青年期の意義 第２節　青年期の課題	６	人間、青年期について 欲求不満と適応、防衛機制、アイデンティティの確立について	○	○	○	○	資料・プリントを配布する。
第２章　人間としての自覚 第１節　ギリシア思想 第２節　キリスト教 第３節　イスラーム 第４節　仏教 第５節　中国思想	18	自然哲学、ソクラテス、プラトン、アリストテレスについて ユダヤ教、イエス、キリスト教の誕生と展開について クルアラーン、六信五行について バラモン教、ブッダ、大乗仏教等について 諸子百家、孔子、孟子、荀子等について	○	○	○	○	資料・プリントを配布する。
第３章　日本人としての自覚 第１節　古代日本人の思想 第２節　日本の仏教思想 第３節　近世日本の思想 第４節　西洋思想の受容と展開	11	神と祭祀、清明心、罪と祓えについて 仏教伝来と聖徳太子、平安仏教、鎌倉仏教について 儒学、朱子学、古学、国学、民衆思想について 自由民権思想、啓蒙思想、国家主義、近代日本哲学について	○	○	○	○	資料・プリントを配布する。
第２編　現代と倫理 第１章　現代に生きる人間の倫理 第１節　人間の尊厳 第２節　科学・技術と人間 第３節　民主社会と自由の実現 第４節　社会と個人 第５節　人間への新たな問い 第６節　社会参加と幸福	13	ルネサンス、宗教改革、モラリストについて 近代の自然観、ベーコン、デカルトについて 社会契約説、カント、ヘーゲルについて アダムスミス、ベンサム、ミルについて フロイト、ユング、ソシュール、ウィトゲンシュタインについて シュヴァイツァー、ガンディーについて	○	○	○	○	資料・プリントを配布する。
第２章　現代の諸課題と倫理 第１節　生命の倫理 第２節　環境の倫理 第３節　家族の課題 第４節　地域社会の課題 第５節　高度情報化社会の課題 第６節　文化と宗教の課題 第７節　国際平和と人類の福祉の課題	６	生命倫理、尊厳死、臓器移植、クローン等について 地球環境問題、国際会議について 現代家族の課題、少子化と高齢化等について コミュニティの変容、地域社会の役割について 情報社会の問題点について グローバル化と異文化理解について 平和の思想と実践について	○	○	○	○	資料・プリントを配布する。

評価規準：a. 関心・意欲・態度　　b. 思考・判断・表現　　c. 技能　d. 知識・理解

教科	科目	学年	履修形態	単位数	その他
保健体育	体育	3	必修	2	

使用教科書	大修館書店「現代高等保健体育」	使用副教材	
科目の目標	運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育てる。 公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。		
学習の到達目標	現在及び将来の自己の状況に応じて体力の向上及び健康の保持増進を図るとともに、卒業後に少なくとも一つの運動が継続できるようにし、生涯にわたって豊かなスポーツライフの実現を図る。		
学習の進め方	1　実技は校内の施設・用具を利用し授業を実施する。また、体育理論は集中実施方式をとる。 2　授業形態は、学年を基本とし、領域・種目ごとに男女別の授業展開や種目選択（男女共習）などがある。 3　種目ごとにスキルテストを実施する。（体つくり運動、体育理論を除く）		
学習の留意点	1　実技が中心の科目のため、原則見学は認められない。 2　指定ジャージ・指定靴の着用ほか、運動に適した服装を心がけること。 3　初めて実施する種目や強度の高い運動については、健康・安全面に配慮し、取り組むこと。		

評価規準	観点別	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
	評価の観点	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、公正、協力、責任、参画などに対する意欲をもち、健康・安全を確保して学習に主体的に取り組もうとしている。	生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現や自己実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫している。また、自己や仲間の状況に応じて体力を高めるための運動を継続するための計画を工夫している。	運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じて勝敗を競ったり、攻防を展開したり、表現したりするための各領域の運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けている。	選択した運動の技術（技）の名称や行い方、体力の高め方、課題解決の方法、練習の仕方、スポーツを行う際の健康・安全の確保の仕方について具体的な方法、運動やスポーツの効果的な学習の仕方及び豊かなスポーツライフの設計の仕方を理解している。
	比重	20%	20%	40%	20%
	評価方法	○関心・意欲・態度・・・授業に取り組む意欲や姿勢などを観察・学習ノート等で評価する。 ○思考・判断・表現・・・課題への取組や工夫、周囲との協力など、観察・学習ノート等で評価する。 ○技能・・・・・・・・・授業への取組やスキルテストで評価する。 ○知識・理解・・・・・・学習した内容について、言ったり、書き出したりしているなど、観察・学習ノート等で評価する。			

単元（種目・領域）	頁	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	定期考査 前期 中間	定期考査 前期 期末	定期考査 後期 中間	定期考査 後期 期末
体つくり運動																	
卓球・バドミントン選択																	
陸上競技・器械運動・ダンス選択																	
サッカー・ソフトボール・柔道選択																	
バスケットボール（男子）																	
バスケットボール（女子）																	
バレーボール（男子）																	
バレーボール（女子）																	
体育理論																	

単元名と単元内容	配当時間	学習内容・学習のポイント	評価規準				備考（到達目標・評価の観点・留意点など）
			a	b	c	d	
体つくり運動	4	・体ほぐしの運動 ・体力を高める運動	○	○		○	新体力テスト実施
卓球・バドミントン選択	8	・練習方法の確認、技術練習（スキルテスト） ・ルール、戦術、審判法の理解 ・仲間との連携(ダブルス)、試合 ・安全面への留意	○	○	○	○	
陸上競技・器械運動・ダンス選択	8	＜陸上競技＞ ・短距離走（50m 走、100m 走） ・走り高跳び、走り幅跳び、砲丸投げ、中長距離走（1500m、800m）　から選択 ＜器械運動＞ ・回転系、巧技系の基本的な技の復習 ・発展技の習得 ・安定して行う ・協力して練習する ・演技、発表にむけた取組 ＜ダンス＞ ・練習方法の確認（表現テスト） ・現代的なリズムのダンス ・創作ダンス	○	○	○	○	
サッカー・ソフトボール・柔道選択	8	＜サッカー・ソフトボール＞ ・練習方法の確認、技術練習（スキルテスト） ・ルール、戦術、審判法の理解 ・仲間との連携、作戦を立てる、試合 ・安全面への留意 ＜柔道＞ ・練習方法の確認、技術練習（スキルテスト） ・ルール、戦術、審判法の理解 ・試合 ・安全面への留意	○	○	○	○	
球技（ゴール型） バスケットボール	10	・練習方法の確認、技術練習（スキルテスト） ・ルール、戦術、審判法の理解 ・仲間との連携、作戦を立てる、試合 ・安全面への留意	○	○	○	○	雨天時は室内競技を実施する
球技（ネット型） バレーボール	10	・練習方法の確認、技術練習（スキルテスト） ・ルール、戦術、審判法の理解 ・仲間との連携、作戦を立てる、試合 ・安全面への留意	○	○	○	○	雨天時は室内競技を実施する
体育理論	6	・人間にとって「動く」とは何か ・スポーツの始まりと変遷 ・文化としてのスポーツ ・オリンピックと国際理解 ・スポーツと経済 ・ドーピングとスポーツ倫理	○	○		○	講義形式（パワーポイント）で実施。

評価規準：a. 関心・意欲・態度　b. 思考・判断・表現　c. 技能　d. 知識・理解

教科	科目	学年	履修形態	単位数	その他
外国語	コミュニケーション英語Ⅲ	3	必修	4	

使用教科書	教育出版 「New ONE WORLD Communication Ⅲ」	使用副教材	教育出版「New ONE WORLD Communication III Workbook」 桐原書店「データベース 3000 4th Edition」
科目の目標	・積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付ける。 ・英語で書かれたり話されたりした情報を適切に理解できる。 ・理解した情報を元に、自身の考えを書く、話す形で発表することができる。		
学習の到達目標	1　英語の幅広い話題（言語や文化など）について、聞いたことや読んだことを理解できる。 2　英語を使って、広い視野に立って情報を発信できる。 3　積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付ける。		
学習の進め方	・授業中は音読やコミュニケーション活動に積極的に参加し、英語を使う機会を増やすこと。 ・復習では、本文を音読するとともに、新出単語を書けるように繰り返し学習すること。 ・文法事項については、家庭学習課題等で確認を行うので、確実に取り組むこと。		
学習の留意点	・習熟度に応じた３展開のクラス編成で授業を実施します。考査ごとにクラスを移動する場合があります。 ・授業規律を守り、グループワーク等の表現活動に積極的に取り組むこと。 ・復習を怠らないこと。わからないことは質問し、必ず理解するまで諦めないこと。 ・英語は言語であり、コミュニケーションを図る手段であるため、その前提となる「聞くこと」「話すこと」について、疎かにせず繰り返し学習すること。		

評価規準	観点別	関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の技能	言語や文化の知識・理解
	評価の観点	コミュニケーション活動へ関心・積極性・主体性を持って参加しようとしている	話す・書くを通じて情報や考えを伝えることができる	聞く・読むを通じて情報や考えを理解できる	英語学習を通じて言語や文化的背景の知識を理解できる
	比重	25%	30%	25%	20%
	評価方法	○関心・意欲・態度・・・コミュニケーション活動への参加態度、発表の内容、提出物の提出頻度と内容 ○外国語表現の能力・・・定期考査の成績、コミュニケーション活動の内容、発表の内容、提出物の提出頻度と内容 ○外国語理解の技能・・・定期考査の成績、提出物の提出頻度と内容 ○言語や文化の知識・理解・・・定期考査の成績、発表の内容、提出物の提出頻度と内容			

単元	頁	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	定期考査 前期 中間	定期考査 前期 期末	定期考査 後期 中間	定期考査 後期 期末	夏休明け	冬休明け
Reading Tasks 1-8	6	■												■					
Lesson 1 Ancient Rome	23	■	■											■					
Lesson 2 The Beautiful Game	33		■	■										■					
Lesson 3 Endangered Languages	41			■										■	■				
Lesson 4 The World of Misuzu	49			■	■										■				
Lesson 5 The Secret Annexe	59				■	■									■				
Supplementary Lesson 1 Who Moved My Cheese?	69																	■	
Lesson 6 New Images of Babies	79					■	■								■				
Lesson 7 Tuna	87						■	■							■				
Lesson 8 Rare Metals	95							■								■			
Lesson 9 The Mystery of Mozart's Music	103							■	■							■			
Lesson 10 Living with Stress	111								■	■						■			
Lesson 11 Water Crisis	119									■	■						■		
Lesson 12 Japanese Innovations	127										■						■		
Supplementary Lesson 2 Stay Hungry, Stay Foolish	135																■		■

単元名と単元内容	配当時間	学習内容・学習のポイント	評価規準				備考
			a	b	c	d	(到達目標・評価の観点・留意点など)
Reading Tasks 1-8	16	・比較的短い文章からなる話題を読みながら、事実や考えを理解する。 ・それぞれのタスクについて、適切な読み取りをする。		○	○	○	英文を読み、各設問に対する解答を簡潔にまとめ発表する。
Lesson 1 Ancient Rome	8	・比較的短い文章からなる話題を読みながら、事実や考えを理解する。 ・感情を込めながら、聞き手が理解出来るように、音読することができる。	○	○	○	○	興味のある歴史的事実について様々な方法で調べ、文章でまとめてスピーチをする。
Lesson 2 The Beautiful Game	8	・サッカーの起源や世界での広がりを読み、スポーツの歴史について理解する。 ・読んだ内容や調べた情報などについて、論理展開のある文章で書くことができる。	○	○		○	スポーツに対しての自身の考え、姿勢について、自分の言葉で英文を作る。
Lesson 3 Endangered Language	7	・言語がなくなることは何を意味し、どういう影響を与えるのかを理解する。 ・言語の重要性について話し合ったり、意見の交換をしたりして言語に対する考えを深める。	○	○	○		
Lesson 4 The World of Misuzu	7	・金子みすゞの詩を英語で味わいながら、言葉の面白さや豊かさを理解する。 ・日本語詩を読むことと同じように、英文を読む際にも情感を込められるよう意識して音読する。	○	○	○		聞き手に対して気持ちが伝わるように、感情を込めながら音読する。
Lesson 5 The Secret Annexe	9	・アンネの日記を通して弱者の苦しみを理解し、平和について考える。 ・ほぼ同年代のアンネが、この時代にどう生きていたのか、話し合ったり意見を交換したりする。	○	○	○	○	書かれている内容を理解し、英語で戦争やアンネの気持ちを説明する。
Supplementary Lesson 1 Who Moved My Cheese?	–	・長文に触れ、限られた時間の中で概略を理解する経験を持つ。 ・危機的な状況にどのように対処すべきか、登場人物の行動から考える。			○	○	授業では取扱わず、課題等での対応とする。
Lesson 6 New Images of Babies	6	・赤ちゃんにどのような能力があるのかを知り、内容を正しく理解する。 ・読んだり調べたりした情報を、簡潔な英文を用いてまとめる。		○	○	○	赤ちゃんの能力について、正しく情報を読み取り、まとめ、英語で簡単な要約を書く。
Lesson 7 Tuna	9	・世界中で食される魚となったマグロを食糧資源として理解し、資源の枯渇を防ぐために行われている養殖と、その難しさを理解する。	○	○	○	○	マグロの養殖を通じ、海産資源の在り方について考えをまとめ、ディベートを行う。
Lesson 8 Rare Metals	6	・レアメタルに関する知識を広げ、世界規模での影響について理解する。 ・現代社会が抱える問題について、英語で書かれた文章を読めるよう語彙力を養う。			○	○	
Lesson 9 The Mystery of Mozart's Music	6	・世界中で愛されるモーツァルト音楽が魅力的な理由について理解する。 ・本文を速読しながら、書かれている概要を適切にまとめる。		○	○	○	
Lesson 10 Living with Stress	6	・身の周りにあるストレスにどのように対処すればよいのかを具体的に考える。 ・現代社会が抱える問題について、英語で書かれた文章を読めるよう語彙力を養う。	○			○	
Lesson 11 Water Crisis	9	・地球規模の水不足を認識しながら、どう対処していくべきかを理解する。 ・現代社会が抱える問題について、英語で書かれた文章を読めるよう語彙力を養う。 ・水の使い方をテーマにして、グループで討論する。	○	○	○	○	・世界的な水資源の問題について自分たちで問題点を話し合って共有するとともに、解決策を模索する姿勢を養う。 ・グループワーク、ピアエバリュエーションを行う。
Lesson 12 Japanese Innovations	8	・日本の産業を支えてきた技術について考え、将来の職業について考える。 ・自国の世界に誇るべき人物や技術について理解を深めることで、自身の帰属意識を高める。	○	○	○	○	世界に誇れる日本の人物や技術力などについてまとめ、スピーチ・プレゼンテーションを行う。
Supplementary Lesson2 Stay Hungry, Stay Foolish	–	・長文に触れ、限られた時間の中で概略を理解する経験を持つ。 ・スティーブ・ジョブズのスピーチを読んで、彼の生き方を考える。			○	○	授業では取扱わず、課題等での対応とする。

評価規準：a 関心・意欲・態度　　b 外国語表現の能力 c 外国語理解の技能　　d 言語や文化の知識・理解

教科	科目	学年	履修形態	単位数	その他
地理歴史	世界史Ｂ	３	選択必修	４	

使用教科書	実教出版「世界史Ｂ新訂版」	使用副教材	浜島書店「アカデミア世界史」
科目の目標	世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、文化の多様性・複合性と現代社会の特質を広い視野から考察することによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。		
学習の到達目標	自然環境と人類の関わり、日本の歴史と世界の歴史のつながり、日常生活にみる世界の歴史に関わる適切な主題を設定し考察する活動を通して、地理と歴史への関心を高め、世界史学習の意義に気付く。		
学習の進め方	諸地域世界の形成、交流と再編、結合と変容について理解を促し、日本の歴史と世界の歴史のつながり、日常生活にみる世界の歴史に関わる適切な主題を設定し考察する活動を通して、地理と歴史への関心を高める。		
学習の留意点	必ず黒板の内容はノートに書き写し、教員の話をしっかり聞くこと。また、説明がわからない時や、漢字が読めない時など、困った場合は遠慮せずに質問すること。わからないままにしておくことは、授業についていけなくなる原因になる。		

評価規準	観点別	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
	評価の観点	世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たそうとしている。	世界の歴史から課題を見いだし、文化の多様性・複合性や現代世界の特質を多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	世界の歴史に関する諸資料を収集し､有用な情報を選択して､読み取ったり図表などにまとめたりしている。	世界の歴史についての基本的な事柄を、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。
	比重	10%	30%	10%	50%
	評価方法	○関心・意欲・態度・・・課題に取組む姿勢などをレポートや日々の授業の中で評価する。 ○思考・判断・表現・・・定期考査や日々の授業での取組、ワークシートなどの取組で評価する。 ○技能・・・・・・・・・定期考査や日々の授業での取組、グループ発表などで評価する。 ○知識・理解・・・・・・定期考査や日々の学習課題で評価する。			

単元	頁	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	定期考査 前期 中間	定期考査 前期 期末	定期考査 後期 中間	定期考査 後期 期末
世界史への扉	8	■												■			
序　章　ビッグバンから人類の出現へ	16	■												■			
第１章　西アジア世界と地中海世界	22	■												■			
第２章　南アジア世界と東南アジア世界	52		■											■			
第３章　東アジア世界	66		■											■			
第４章　中央ユーラシア世界と東アジア世界の展開	82			■										■			
第５章　アフリカ世界と南北アメリカ世界	104			■										■			
第６章　イスラームの広がりと西アジア世界の展開	112				■										■		
第７章　ヨーロッパ世界の形成と展開	128				■										■		
第８章　中央ユーラシア世界と諸地域の交流・再編	156					■									■		
第９章　近世ヨーロッパと大航海時代	182					■									■		
第 10 章　アジア諸地域の帝国と第２次大交易時代	220						■								■		
第 11 章　環大西洋革命とパクス=ブリタニカ	244						■								■		
第 12 章　近代ヨーロッパ・アメリカの国民国家	262							■								■	
第 13 章　地球をおおう帝国主義と世界諸地域の抵抗	286							■								■	
第 14 章　二つの世界大戦	332								■							■	
第 15 章　冷戦から多極的国際社会へ	372								■								■
第 16 章　グローバリゼーションと地球環境の危機	410									■	■						■

単元名と単元内容	配当時間	学習内容・学習のポイント	評価規準				備考
			a	b	c	d	(到達目標・評価の観点・留意点など)
世界史への扉	5	・世界史学習の導入として「自然環境からみたシュメール人の都市国家」をとりあげる。	○	○	○	○	
序　章　ビッグバンから人類の出現へ 第１章　西アジア世界と地中海世界 第２章　南アジア世界と東南アジア世界 第３章　東アジア世界 第４章　中央ユーラシア世界と東アジア世界の展開 第５章　アフリカ世界と南北アメリカ世界	20	・人類の起源と発達を「人類とはなにか」という視点に立って考える。 ・各地の古代文明の内容とその違いについて理解するとともに、古代文明の後世への影響についても注目する。	○	○	○	○	
第６章　イスラームの広がりと西アジア世界の展開 第７章　ヨーロッパ世界の形成と展開 第８章　中央ユーラシア世界と諸地域の交流・再編	20	・イスラームの成立・拡大をその歴史的背景を中心に把握する。 ・中世ヨーロッパ世界の形成・展開をイスラーム世界からの影響を踏まえながら把握する。	○	○	○	○	
第９章　近世ヨーロッパと大航海時代 第 10 章　アジア諸地域の帝国と第２次大交易時代 第 11 章　環大西洋革命とパクス＝ブリタニカ 第 12 章　近代ヨーロッパ・アメリカの国民国家	21	・ルネサンス・大航海時代・宗教改革という大変動を理解する。 ・近代ヨーロッパ形成期のアジアと第２次大交易時代の海域アジアの活況を理解する。 ・市民革命によって近代民主主義の理念と制度の原型が成立し、イギリスの産業革命によって資本主義社会が確立したことを把握する。	○	○	○	○	
第 13 章　地球をおおう帝国主義と世界諸地域の抵抗 第 14 章　二つの世界大戦	22	・ヨーロッパによる植民地化・従属化の動きに対抗して進められたアジア・アフリカの近代化についても把握する。 ・第一次世界大戦の総力戦としての性格を理解し、ヴェルサイユ体制・ワシントン体制の理念と現実、アジア・アフリカの民族運動の動向を把握する。 ・世界恐慌が戦間期の国際秩序に危機をもたらし、全体主義の台頭によって国際対立が生み出されて第二次世界大戦につながっていくことを理解する。	○	○	○	○	
第 15 章　冷戦から多極的国際社会へ 第 16 章　グローバリゼーションと地球環境の危機	20	・第二次大戦後の米ソを中心とする東西両陣営の対立とその冷戦体制が「熱い戦争」をともないながら次第に変化していく様子を把握する。 ・戦後のアジア・アフリカの新興独立国家からなる第三勢力の台頭が世界の多極化をもたらしたことと、第三世界内部に次第に対立が生じていったことを理解する。 ・冷戦終結後に地域対立の激化など新たな問題が発生していることを理解し、21 世紀の諸課題についてグローバルな視点からの考察が必要なことを認識する。	○	○	○	○	

評価規準：a. 関心・意欲・態度　b. 思考・判断・表現　c. 技能　d. 知識・理解

教科	科目	学年	履修形態	単位数	その他
地理歴史	地理Ｂ	３	選択必修	４	

使用教科書	帝国書院「新詳地理Ｂ」 帝国書院「地歴高等地図－現代世界とその歴史的背景－」	使用副教材	
科目の目標	現代世界の地理的事象を系統地理的に、現代世界の諸地域を歴史的背景を踏まえて地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。		
学習の到達目標	世界諸地域の生活・文化及び地球的課題について、地域性や歴史的背景を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を深めるとともに、地理的技能及び地理的な見方や考え方を身に付ける。		
学習の進め方	現代世界の特色と諸課題を地理的に学ぶ。地球規模や地域規模での考察を意識し、課題を探究する学習の中で地図等を活用しながら事象を説明したり、論述したりするなどの学習を行う。分野の内容や進度等、状況に応じてプリント・資料配布で授業に代える場合もある。		
学習の留意点	必ず黒板の内容はノートに書き写し、教員の話をしっかり聞くこと。また、説明がわからない時や、漢字が読めない時など、困った場合は遠慮せずに質問すること。わからないままにしておくことは、授業についていけなくなる原因になる。		

評価規準	観点別	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
	評価の観点	地理的事象に対する関心と課題意識を高め、それを意欲的に追究し、国際社会に主体的に生きる日本国民としての責任を果たそうとしている。	地理的事象から課題を見いだし、それを地域性・歴史的背景などの関連を踏まえて多面的・多角的に考察・判断して、その過程や結果を適切に表現している。	地図や統計、画像など地域に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめることができる。	地理的事象についての基本的な事柄や追究の方法を理解し、その知識を身に付けている。
	比重	10%	30%	10%	50%
	評価方法	○関心・意欲・態度・・・課題に取組む姿勢などをレポートや日々の授業の中で評価する。 ○思考・判断・表現・・・定期考査や日々の授業での取組、ワークシート等での取組で評価する。 ○技能・・・・・・・・・定期考査や日々の授業での取組、グループ発表などで評価する。 ○知識・理解・・・・・・定期考査や日々の学習課題で評価する。			

単元	頁	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	定期考査 前期 中間	定期考査 前期 期末	定期考査 後期 中間	定期考査 後期 期末
Ⅰ　１章　地理情報と地図	６	■												■			
Ⅰ　２章　地図の活用と地域調査	18	■												■			
Ⅱ　１章　自然環境	28	■	■	■										■			
Ⅱ　２章　資源と産業	94			■	■	■								■	■		
Ⅱ　３章　人口、村落・都市	168					■									■		
Ⅱ　４章　生活文化、民族・宗教	201					■									■		
Ⅲ　１章　現代世界の地域区分	228						■									■	
Ⅲ　２章　現代世界の諸地域	231						■	■	■	■						■	■
Ⅲ　３章　現代世界と日本	324										■						■

単元名と単元内容	配当時間	学習内容・学習のポイント	評価規準				備考
			a	b	c	d	(到達目標・評価の観点・留意点など)
第１部　さまざまな地図と地理的技能	5	現代世界の地図について、さまざまな時代や種類の地図の読図などの活動を通して、各時代の人々の世界観を捉え、現代の地図や身近な地図の有用性に気付く。	○	○		○	
第２部　現代世界の系統地理的考察 １章　自然環境	20	世界の自然環境について、さまざまな事象や要因を考察し、多角的に捉え、人間生活との関わりを考察する。		○	○	○	
２章　資源と産業	25	世界の農林水産業、食料問題、資源・エネルギー問題、工業、第三次産業、交通・通信等の事象を中心に、現状と課題を考察する。	○	○		○	
３章　人口、村落・都市	14	世界の人口や村落・都市についての事象を考察し、その課題解決のための在り方を考察する。		○		○	
４章　生活文化、民族・宗教	10	生活文化や民俗・宗教についての事象を考察し、現状と課題を考察する。		○		○	
第３部　現代世界の地誌的考察 １章　現代世界の地域区分	2	地域区分とは何かについて、地域の概念や地域区分の目的、意義を理解する。	○	○			
２章　現代世界の諸地域 １節　地誌の考察方法 ２節　東アジア ３節　東南アジア ４節　南アジア ５節　西アジアと中央アジア ６節　北アフリカとサハラ以南のアフリカ ７節　ヨーロッパ ８節　ロシア ９節　アングロアメリカ 10 節　ラテンアメリカ 11 節　オセアニア	30	地域区分に基づき、地形と気候、民族と人口、食生活と農業、工業化と経済発展、日本との関わり、等の多様な事象を項目ごとに整理して考察する。	○	○		○	
３章　現代世界と日本	2	現代世界における日本の特色について、多面的・多角的に考察し、日本が抱える地理的な諸課題を探究する活動を通して、その解決の方向性や将来の国土の在り方などについて展望する。		○	○		

評価規準：a. 関心・意欲・態度　b. 思考・判断・表現　c. 技能　d. 知識・理解

教科	科目	学年	履修形態	単位数	その他
理科	化学研究	3	選択Ⅰ	3	

使用教科書	なし	使用副教材	数研出版「リードα化学基礎」 第一学習社「スクエア最新図説化学」
科目の目標	それぞれの進路実現に必要な化学の知識を付ける。		
学習の到達目標	1　日常生活や社会との関連を図りながら化学や化学現象への関心を高める。 2　自分自身の進路実現に必要な化学の知識を身に付ける。 3　化学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。		
学習の進め方	基礎的な事項の確認と問題演習を並行して行う。また必要に応じて基礎を付さない化学の分野についても触れ、受験にも対応した内容で行う。		
学習の留意点	・問題演習を中心に行うので、予習・復習をしっかりとしておくこと。 ・教科書の図などを利用することがあるので、忘れ物をしないようにすること。 ・課題が出された場合は、期日までに必ず提出すること。		

評価規準	観点別	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
	評価の観点	・学習活動（質疑応答、討論、演習、実験・観察など）に積極的に参加しようとしている。 ・提出物の作成（レポートや授業ノートなど）に意欲的に取組もうとしている。 ・化学の内容と他教科や実際社会とを関係づけて考えようとする。	・実験結果や既知の知識から論理的な思考をし、考察することができている。 ・討論、レポート作成、論述問題などで、科学的な根拠に基づいて述べることができている。 ・図や表を読み取り、必要な情報を取り出して論理的な結論を導き出している。	・観察・実験を安全に遂行できる。 ・それぞれの実験操作の意味を理解して、正確に遂行できる。 ・データの取り方が適切である（とりこぼし、計測ミスなどがない）。 ・観察の仕方やレポートの書き方が適切である。	・科学的な知識の活用力・応用力が身に付いている。 ・科学的な現象を論述できる。 ・実験レポート等で、授業で学習した内容が正しく理解され知識となってきちんと反映されている。
	比重	15%	35%	40%	10%
	評価方法	○関心・意欲・態度・・・行動観察や提出物、及び定期考査の選択問題などを手がかりに評価する ○思考・判断・表現・・・行動観察や提出物、及びプレゼンテーション、定期考査の論述問題などで評価する ○技能・・・・・・・・・実験レポートや定期考査のグラフ問題などで評価する ○知識・理解・・・・・・行動観察や提出物、及び定期考査の論述問題などを手がかりに評価する			

単元	頁	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	定期考査 前期 中間	定期考査 前期 期末	定期考査 後期 中間	定期考査 後期 期末
1編　物質の構成と化学結合																	
1章　物質の構成	4	■	■											■			
2章　物質の構成粒子	12		■	■	■									■	■		
3章　粒子の結合	22				■	■	■								■		
2編　物質の変化																	
4章　物質量と化学反応式	36					■	■	■								■	
5章　酸と塩基の反応	54						■	■	■							■	■
6章　酸化還元反応	72								■	■	■						■

単元名と単元内容	配当時間	学習内容・学習のポイント	評価規準				備考
			a	b	c	d	(到達目標・評価の観点・留意点など)
1編　物質の構成と化学結合							
1章　物質の構成	11	・化学物質に関して化学的知識を生かし、適切に扱う方法を身に付ける。 ・化学の実社会における役割を理解し、知識を身に付ける。 ・物質の構造・状態・成分・化学結合と物質の性質に関する基本的な概念や原理・法則などの知識が必要であることを理解する。	○	○		○	実験1 「混合物の分離」
2章　物質の構成粒子	10	・物質の成り立ちと分類方法として混合物と純物質の考え方があることを理解・習得し、その具体的なあてはめ方について基本的な知識を身に付ける。 ・元素の確認方法や同素体の性質確認について理解・習得しており、その具体的なあてはめ方について基本的な知識を身に付ける。 ・物質の三態変化や現象についての基本的な概念を理解・習得しており、その具体的なあてはめ方について基本的な知識を身に付ける。		○		○	実験2 「アルカリ金属の性質」
3章　粒子の結合	15	・物質の構成粒子としての原子の構造について理解・習得し、具体的な原子の表現についても規則性があること等の基本的な知識を身に付ける。 ・原子の電子配置について基本的な概念を理解・習得し、具体的な扱い方の規則性について基本的な知識を身に付ける。 ・元素の性質に関わる周期律の考え方を理解・習得し、電子配置と周期表との具体的な関連について基本的な知識を身に付ける。		○	○	○	実験3 「分子の極性」
2編　物質の変化							
4章　物質量と化学反応式	14	・原子量、分子量、式量について正確に理解・習得し、あらゆる物質について正しく表現できる基本的な知識を身に付ける。 ・アボガドロ数と物質量との関係を正確に理解・習得し、モル質量、1mol の気体の体積、溶液の濃度等について基本的な知識を身に付ける。 ・化学反応式の書き方について理解・習得し、その係数と物質量、気体の体積等の関係について基本的な知識を身に付ける。		○	○		実験4 「アボガドロ数を求める」
5章　酸と塩基の反応	15	・酸と塩基の複数の定義や分類について理解・習得し、具体的な酸や塩基の価数や強弱について基本的な知識を身に付ける。 ・水素イオン濃度と pH の関係について理解・習得し、酸性・塩基性の定義や身の回りの具体的な物質の pH 測定等の考察を通じて基本的な知識を身に付ける。 ・中和反応の量的関係について理解・習得し、塩の生成や中和滴定の実験を通じて具体的な器具や指示薬、滴定曲線についての基本的な知識を身に付ける。	○	○	○	○	実験5 「pH の測定」 実験6 「塩の水溶液の pH」
6章　酸化還元反応	16	・酸化還元反応の定義を理解・習得し、電子の授受や酸化数の変化による説明や具体的な酸化剤・還元剤の反応に関する基本的な知識を身に付ける。 ・金属のイオン化傾向について理解・習得し、具体的な金属の反応性について基本的な知識を身に付ける。 ・酸化還元反応の応用としての電池、電気分解を理解し、具体的な電池の構造や電気分解での反応について基本的な知識を身に付ける。		○		○	実験7 「酸化剤と還元剤の反応」

評価規準：a.関心・意欲・態度　b.思考・判断・表現　c.技能　d.知識・理解

教科	科目	学年	履修形態	単位数	その他
保健体育	生涯スポーツ	3	選択	2	

使用教科書	大修館書店「現代高等保健体育」	使用副教材	
科目の目標	運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし，自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育てる。 公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。		
学習の到達目標	現在及び将来の自己の状況に応じて体力の向上及び健康の保持増進を図るとともに，生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現するため、他者とのかかわりのなかで協力・協調しながら自己の役割を積極的に果たす。また、ルールの理解や基礎的な競技の運営方法を身に付ける。		
学習の進め方	1　実技は校内の施設・用具を利用し授業を実施する。また、ルールの確認など座学も実施する。 2　授業形態は、学年を基本とし、履修者全員で実施する（男女共習）。 3　種目ごとのスキルテストを実施する他、ルールやスポーツの歴史等小テスト実施する。		
学習の留意点	1　実技が中心の科目のため、原則見学は認められない。 2　指定ジャージ・指定靴の着用ほか、運動に適した服装を心がけること。 3　初めて実施する種目については、ルール・用具の使い方等安全面に配慮し、取り組むこと。		

評価規準	観点別	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
	評価の観点	運動に慣れ親しむ態度および、自己の健康や体力の向上を図ろうとしている。また、自己の状況だけでなく、他者との協力心や協調性をもち、安全を確保して学習に取り組もうとしている。	生涯にわたる豊かなスポーツライフを目指して、自己実現を目指して、自己や仲間の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫している。また、自己や仲間の状況に応じて体力を競技の運営方法を工夫している。	自己の能力と運動の特性に応じた技能を高め、合理的な体の動かし方を身に付けようとしている。	スポーツの意義や必要性を理解するための知識を身に付け、自己の健康や安全および体力の向上の仕方を理解している。
	比重	30%	20%	30%	20%
	評価方法	○関心・意欲・態度・・・授業に取り組む意欲や姿勢などを観察・学習ノート・発表等で評価する。 ○思考・判断・表現・・・課題への取組や工夫、周囲との協力など、観察・学習ノート・発表等で評価する。 ○技能・・・・・・・・・授業への取組やスキルテストで評価する。 ○知識・理解・・・・・・学習した内容について、言ったり、書き出したりしているなど、観察・学習ノート、小テスト等で評価する。			

単元	頁	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	定期考査 前期 中間	定期考査 前期 期末	定期考査 後期 中間	定期考査 後期 期末
体つくり運動		■															
ソフトバレーボール			■	■													
生涯スポーツ概論	158～171	■		■		■		■		■							
ユニホック				■	■												
３ｘ３（スリー　バイ　スリー）　バスケット						■	■										
インディアカ							■	■									
インドアペタンク								■	■								
トレーニング理論実習								■									
室内ゲートボール									■	■							
体育理論									■	■	■						

単元名と単元内容	配当時間	学習内容・学習のポイント	評価規準				備考（到達目標・評価の観点・留意点など）
			a	b	c	d	
体つくり運動	3	・体ほぐしの運動（発展） ・体力を高める運動（発展）	○	○		○	
ソフトバレーボール	7	・練習方法の確認、技術練習 ・ルール、戦術、審判法の理解 ・仲間との連携、作戦を立てる、試合 ・安全面への留意	○	○	○	○	
生涯スポーツ概論	5	・種目ごとに座学で確認を行う。 ・練習方法の確認 ・ルール、審判法の理解 ・安全面への留意	○	○		○	知識整理のための小テストを実施する
ユニホック	7	・練習方法の確認、技術練習 ・ルール、戦術、審判法の理解 ・仲間との連携、作戦を立てる、試合 ・安全面への留意	○	○	○	○	
３ｘ３(スリー　バイ　スリー)　バスケット	6	・練習方法の確認、技術練習 ・ルール、戦術、審判法の理解 ・仲間との連携、作戦を立てる、試合 ・安全面への留意 ・プレ大会の運営、準備	○	○	○	○	
インディアカ	7	・練習方法の確認、技術練習 ・ルール、戦術、審判法の理解 ・仲間との連携、作戦を立てる、試合 ・安全面への留意	○	○	○	○	
インドアペタンク	7	・練習方法の確認、技術練習 ・ルール、戦術、審判法の理解 ・仲間との連携、作戦を立てる、ゲーム ・安全面への留意	○	○	○	○	
トレーニング理論実習	3	・体力について ・合理的な体の動かし方を学び、体力向上を目指す ・学んだ理論を実践する	○	○	○	○	新体力テストのデータの活用
室内ゲートボール	7	・練習方法の確認、技術練習 ・ルール、戦術、審判法の理解 ・仲間との連携、作戦を立てる、ゲーム ・安全面への留意	○	○	○	○	
体育理論	2	・競技、種目のまとめ ・生涯スポーツについて考えを深める ・グループワーク、発表	○	○		○	高校段階までの運動・スポーツ経験を生かし、生涯スポーツの実践力を高める方法を考察できるようにする

評価規準：a. 関心・意欲・態度　b. 思考・判断・表現　c. 技能　d. 知識・理解

教科	科目	学年	履修形態	単位数	その他
外国語	英語講読	3	選択	3	

使用教科書	なし	使用副教材	Cambridge University Press 「Read This! 1 Student's Book」
科目の目標	1　聞いたことや読んだことを理解し、情報や考えなどを英語で話したり書いたりして伝える能力を伸ばす。 2　事実や意見などを多様な観点から考え、話の展開や表現方法を工夫しながら伝える能力を高めるとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。		
学習の到達目標	1　様々な種類の英文を、その種類に応じて適切に読解することができる。 2　聞き手や目的に応じて簡潔に話すことができ、読み手や目的に応じて、簡潔に書くことができる。 3　聞いたり、読んだりしたこと、学んだことや、経験したことについて情報や考えをまとめ、発表することができる。		
学習の進め方	・特定の教科書は使用せず、新聞や映画などの実際に英語圏で使われているものを主に教材として取り扱う。 ・実際に英文を読解する、英語でコミュニケーションをとる練習を中心に行う。		
学習の留意点	・読む・書く・聞く・話すの活動を中心に行うので、積極的に取り組むこと。 ・学習した内容を必ず復習し、理解すること。 ・わからないことは必ず解決すること。（辞書を利用する、質問をする等）		

評価規準	観点別	関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の技能	言語や文化の知識・理解
	評価の観点	コミュニケーション活動への関心・積極性・主体性	話す･書くを通じて情報や考えを伝えることができる	聞く･読むを通じて情報や考えを理解できる	英語学習を通じての言語や文化的背景の知識や理解
	比重	30%	20%	20%	30%
	評価方法	○関心・意欲・態度・・・コミュニケーション活動への参加態度、発表の内容、提出物の提出頻度と内容 ○外国語表現の能力・・・定期考査の成績、コミュニケーション活動の内容、発表の内容、提出物の提出頻度と内容 ○外国語理解の技能・・・定期考査の成績、提出物の提出頻度と内容 ○言語や文化の知識・理解・・・定期考査の成績、発表の内容、提出物の提出頻度と内容			

単元	頁	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	定期考査 前期 中間	定期考査 前期 期末	定期考査 後期 中間	定期考査 後期 期末
英文読解　対話文		■	■											■			
英文読解　物語			■	■	■									■	■		
英文読解　スピーチ					■	■									■		
英文読解　手紙・メール・日記							■								■	■	
英文読解　ポスター・チラシ								■								■	
英文読解　論文・説明文									■	■	■					■	■
実践　プレゼンテーション		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■						
実践　ディベート		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■						

単元名と単元内容	配当時間	学習内容・学習のポイント	評価規準				備考
			a	b	c	d	(到達目標・評価の観点・留意点など)
英文読解　対話文	6	対話文の構成・読み方・書き方	○	○	○	○	
英文読解　物語	6	物語の構成・読み方・書き方	○	○	○	○	
英文読解　スピーチ	6	スピーチの構成・読み方・書き方	○	○	○	○	
英文読解　手紙・メール・日記	6	手紙・メール・日記の構成・読み方・書き方	○	○	○	○	
英文読解　ポスター・チラシ	6	ポスター・チラシの構成・読み方・書き方	○	○	○	○	
英文読解　論文・説明文	6	論文・説明文の構成・読み方・書き方	○	○	○	○	
実践　プレゼンテーション	20	プレゼンテーションの実践	○	○	○	○	
実践　ディベート	25	ディベートの実践	○	○	○	○	

評価規準：a 関心・意欲・態度　　b 外国語表現の能力 c 外国語理解の技能　　d 言語や文化の知識・理解

教科	科目	学年	履修形態	単位数	その他
商業	情報処理	3	選択Ⅰ	3	

使用教科書	東京法令出版「情報処理」	使用副教材	実教出版　「全商情報処理検定模擬問題集３級」 実教出版　「全商情報処理検定模擬問題集２級」
科目の目標	ビジネスに関する情報を収集・処理・分析し、表現する知識と技術を習得させ、情報の意義や役割について理解させるとともに、ビジネスの諸活動において情報を主体的に活用する能力と態度を育てる。		
学習の到達目標	１　コンピュータの基礎知識、文書処理ソフトウェアや表計算ソフトウェアなど各種ソフトウェアの操作方法を身に付ける。 ２　習得した技法を用いてビジネスに関する情報を収集・処理・分析し、表現する知識と技術を習得する。 ３　情報の意義や役割について理解する。 ４　個人情報や知的財産の保護に留意して、ビジネスの諸活動において情報を主体的に活用する能力と態度を身に付ける。		
学習の進め方	前半は、基礎知識を身に付けるための座学となる。後半は、これらの知識を活かしてソフトウェアを活用した実習を行う。		
学習の留意点	１　座学と実技の授業を交互に行う。話を聞くときと作業をするときのメリハリをつけること。 ２　座学の授業実施時には毎回小テストを行う。必ず復習を行うこと。 ３　授業はプリントを使用して行うため、ファイルにとじて保管すること。 ４　提出物の提出期限は必ず守ること。		

評価規準	観点別	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
	評価の観点	ビジネスの諸活動に関する諸課題や情報処理機器の活用について関心をもち、その知識と技術の取得および改善・向上を目指して主体的に取組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けようとしている。	ビジネスの諸問題に関する諸課題の解決を目指して自ら思考を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して、ビジネスの諸活動に携わる者として適切に判断し、表現する創造的な能力を身に付けている。	情報および情報技術を活用するための基礎的・基本的な技術を身に付け、ビジネスの諸活動を合理的に計画し、その技術を適切に活用している。	情報および情報技術を活用するための基礎的・基本的な知識を身に付け、ビジネスの諸活動に関する意義や役割を理解している。
	比重	25%	25%	25%	25%
	評価方法	○関心・意欲・態度・・・日々の授業に取り組む態度を評価する。（提出物・持ち物・出席状況　等） ○思考・判断・表現・・・日々の授業での発言、定期考査、提出物の記述状況で評価する。 ○技能・・・実習の授業の中で評価する。 ○知識・理解・・・小テスト、定期考査、日々の授業の発言で評価する。			

単元	頁	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	定期考査 前期 中間	定期考査 前期 期末	定期考査 後期 中間	定期考査 後期 期末
第１章　ビジネスと情報																	
［1］ビジネスと情報	4	■												■			
［2］ビジネスとコンピュータ利用	8	■												■			
［3］コンピュータの五大装置	14	■												■			
［4］パソコンのハードウェア	16	■												■			
［5］パソコンのソフトウェア	22	■												■			
第２章　情報通信ネットワーク																	
［1］情報通信ネットワークの概要	32		■											■			
［2］ビジネス情報の検索と収集	40		■											■			
［3］ビジネス情報の受信と発信	46		■											■			
［4］インターネットを活用したビジネス	52		■											■			

単元	頁	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	定期考査			
														前期		後期	
														中間	期末	中間	期末
第３章　情報モラルとセキュリティ管理																	
［１］情報モラル	58			■										■			
［２］セキュリティ管理	64			■										■			
第４章　ビジネス文書の作成																	
［１］文章の表現	74			■											■		
［２］文章の作成	88			■											■		
［３］文書の作成	96				■										■		
［４］効果的な文書の作成	108				■										■		
第５章　ビジネス情報の処理と分析																	
［１］表計算ソフトの基礎知識	120				■										■		
［２］表計算ソフトの基本操作	122				■										■		
［３］基本的な関数	134					■									■		
［４］グラフの基礎知識	148					■									■		
［５］基本的なグラフの作成	150					■									■		
［６］発展的な関数	160						■								■		
［７］データの整列・検索・抽出	178						■								■		
［８］表計算ソフトのデータベース関数	186						■								■		
［９］ビジネスと統計	198							■								■	
［10］統計資料の傾向をとらえるための技法	200							■								■	
［11］統計グラフの作成	206								■							■	
［12］時系列分析と需要予測	212								■							■	
第６章　プレゼンテーション																	
［１］プレゼンテーションの技法	222									■							■
［２］ビジネスとプレゼンテーション	236									■	■						■

単元名と単元内容	配当時間	学習内容・学習のポイント	評価規準				備考（到達目標・評価の観点・留意点など）
			a	b	c	d	
第１章　ビジネスと情報 [１]ビジネスと情報	３	・情報の意義と役割 ・問題解決と情報活用の重要性 ・コンピュータの役割	○ ○ ○	 ○ ○	 	○ ○ ○	・ビジネスにおける情報の役割に関心をもち、積極的に活用するための知識や技術を修得しようと努めている。 ・ビジネスの活動における情報の重要性について説明することができる。また、問題解決のための情報処理の過程を説明することができる。
第１章　ビジネスと情報 [２]ビジネスとコンピュータ利用	４	・ビジネスでのコンピュータ利用 ・情報処理システムの形態 ・データ処理の方法	○ ○ ○	○ ○ ○	 	○ ○ ○	・ビジネス活動の変化に関心を持ち、積極的に情報を収集してその変化の概要について学ぼうとしている。 ・さまざまな情報システムの特徴を理解し、ビジネスの諸活動における目的に応じた利用形態について考察することができる。 ・ネットワークシステムの利用形態の種類と特徴を説明することができる。また、データ処理の種類と特徴を説明することができる。
第１章　ビジネスと情報 [３]コンピュータの五大装置	３	・コンピュータの基本機能 ・コンピュータの五大装置	○ ○	○ ○	 	○ ○	・コンピュータの仕組みに関心をもち、積極的にその知識を修得しようとしている。 ・五大装置の名称と各機能について理解している。 ・情報を扱う際の仕組みや処理方法について具体的に説明することができる。
第１章　ビジネスと情報 [４]パソコンのハードウェア	４	・基本的な構成 ・各装置の働き ・データの表現	○ ○ ○	 ○ ○	 ○	○ ○ ○	・コンピュータのハードウェアに関心をもち、その仕組みを積極的に学ぼうとしている。 ・利用目的に応じた適切なハードウェアを選択することができる。 ・10 進数・２進数・16 進数との間の変換や計算などを正確におこなうことができる。
第１章　ビジネスと情報 [５]パソコンのソフトウェア	５	・ソフトウェアの種類 ・システムソフトウェア ・応用ソフトウェア ・ファイル操作	○ ○ ○ ○	 	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	・コンピュータのオペレーティングシステムについて関心を持ち、その知識の取得を目指して意欲的に取り組んでいる。 ・ソフトウェアの起動終了、フォルダの作成削除などのファイル操作を正確に行うことができる。 ・パソコンのソフトウェア・ドライブ・フォルダの種類や特徴その役割について説明することができる。
第２章　情報通信ネットワーク [１]情報通信ネットワークの概要	３	・情報通信ネットワーク ・LAN ・インターネットとは ・インターネットと TCP/IP ・インターネット接続と通信回線 ・インターネット接続とプロバイダ ・インターネットで利用できるサービス	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	 	 	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	・具体的な事例を考え、その役割の重要性について考えようとしている。 ・インターネットの仕組みや LAN の形態など、情報通信ネットワークの役割やその構成、利用形態の概要を説明することができる。
第２章　情報通信ネットワーク [２]ビジネス情報の検索と収集	３	・検索エンジンとは ・検索エンジンの利用 ・ブラウザの各種機能の利用 ・Web サイトの信ぴょう性と情報の取捨選択	○ ○ ○ ○	 ○	 ○ ○ 	○ 	・適切な情報を検索するために、検索方法を工夫するなど意欲的に取り組んでいる。 ・ウェブページで提供される情報の信頼性を見極めることができる。 ・検索エンジンを活用して、情報の検索・収集を行うことができる。 ・ブラウザの各機能について理解し、活用することができる。
第２章　情報通信ネットワーク [３]ビジネス情報の受信と発信	３	・メーラ ・電子メールの利用 ・電子メールの機能とサービス	○ ○ ○	 	○ ○ ○	○ ○ ○	・電子メールの概要や使い方について関心を持ち、積極的に実習に取り組んでいる。 ・電子メールを活用して、添付ファイルやファイルの圧縮などの技法を用い、情報の受信・発信を行うことができる。 ・受信者の立場に立った適切な表現を用いて、受信・発信ができる。 ・情報発信には、発信者として責任が生じることを理解している。

単元名と単元内容	配当時間	学習内容・学習のポイント	評価規準				備考（到達目標・評価の観点・留意点など）
			a	b	c	d	
第２章　情報通信ネットワーク ［４］インターネットを活用したビジネス	３	・電子商取引 ・インターネットを使った広告 ・インターネットバンキング ・音声や動画などとインターネットサービス	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○		○ ○ ○ ○	・インターネットを利用したサービスについて、身近にある事柄などに関心をもち、積極的に知ろうとしている。 ・従来のビジネスとの違いや、その長所や短所を判断できる。 ・インターネットを活用したビジネスやサービスについて説明することができる。
第３章　情報モラルとセキュリティ管理 ［１］情報モラル	２	・情報モラル ・ネチケット ・個人情報の保護 ・個人情報保護法 ・肖像権	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○			・情報通信ネットワークを利用するときのルールやマナーを理解し、情報社会に適切に参加するための考え方や態度を身に付けようとしている。 ・情報が社会に与える影響の大きさや、情報に対する責任の重さなどを考慮し、情報を取り扱う際の留意点をさまざまな角度から考察できる。
第３章　情報モラルとセキュリティ管理 ［２］セキュリティ管理	２	・マルウェア ・ウイルス対策ソフト ・セキュリティホールとアップデート ・セキュリティ管理 ・盗聴防止と暗号化 ・インターネット上の犯罪	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○		○ ○ ○ ○ ○ ○	・身近な事例などを通してネットワーク利用における危険に関心を持ち、セキュリティ管理の必要性や対策方法についての知識や技術を修得しようと努めている。 ・コンピュータ犯罪などの要因を考慮し、適切な対策方法を判断する能力を身に付けている。 ・セキュリティ管理の基本的な方法について説明することができる。
第４章　ビジネス文書の作成 ［１］文章の表現	６	・わかりやすい文章の必要性 ・わかりやすい文章とは ・用字・用語の使い方 ・文章の構成・作成する手順 ・わかりやすい文章表現のための工夫 ・正しい敬語の使い方 ・日常生活から言葉を鍛える ・IT 社会における文章表現や敬語のあり方	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○		○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	・わかりやすい文章の作成や適切な敬語の使い方など、日常生活においても積極的に実践を試みる。 ・ビジネス活動における文章表現の重要性を理解し、適切な表現や手段を選択することができる。 ・正しい用字・用語の使い方や、場面にあった敬語の使い分けについて説明することができる。
第４章　ビジネス文書の作成 ［２］文章の作成	４	・文字入力 ・文章の入力	○ ○		○ ○		・タッチタイピングを習得するために、自ら進んで取り組もうとする姿勢が見られる。 ・文章を効率よく入力するための方法を様々な試行を繰り返して、身に付けている。 ・さまざまな文字をスムーズに入力し、ページ設定・文章の入力、文書の保存・文書の印刷の操作をスムーズに行うことができる。
第４章　ビジネス文書の作成 ［３］効果的な文書の作成	４	・通信文書の種類と構成 ・取引文書の作成 ・社交・儀礼文書の作成 ・社内文書の作成	○ ○ ○ ○		○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	・文字の書式設定の変更や罫線を作成することができる。また、支持された通りに各種文書を作成することができる。 ・ビジネス文書の種類と構成、文字の書式設定の変更や罫線を作成する方法を理解している。
第４章　ビジネス文書の作成 ［４］効果的な文書の作成	４	・画像の取り込みと編集 ・効果的な文書の作成	○ ○	○ ○	○ ○		・表・グラフ・図形・画像などを効果的に用いる方法に興味や関心を持っている。 ・効果的な文書を作成する方法を探ったり、試したりしようとしている。 ・報告書、提案書、リーフレットなどを作成するために思考したり、判断したりして、適切に表現している。 ・必要な画像を取り込んで、目的に応じた編集をすることができる。また、各種文書を指示された通りに作成することができる。 ・画像を取り込む方法や目的に応じて編集する方法を理解している。表・グラフ・図形・画像などを効果的に用いる方法を理解している。

単元名と単元内容	配当時間	学習内容・学習のポイント	評価規準				備考（到達目標・評価の観点・留意点など）
			a	b	c	d	
第５章　ビジネス情報の処理と分析 [１]表計算ソフトの基礎知識	１	・表計算ソフトの特徴 ・画面の構成	○ ○	○ ○		○ ○	・表計算ソフトに興味を持ち、その仕組みを積極的に学ぼうとしている。 ・表計算ソフトの特徴を理解し、利用場面などを検討することができる。 ・表計算ソフトの基本的な構成や特徴について理解している。
第５章　ビジネス情報の処理と分析 [２]表計算ソフトの基本操作	２	・データの利用 ・表の修正 ・表の編集	○ ○ ○		○ ○ ○	○ ○ ○	・表計算ソフトの使い方について関心を持ち、積極的に実習に取り組んでいる。 ・入力・保存・印刷・編集などの基本操作を行うことができる。 ・表の体裁を整える技術を身に付けている。 ・数値や文字などのデータや、計算式の取り扱い方について理解している。
第５章　ビジネス情報の処理と分析 [３]基本的な関数	３	・関数の利用 ・条件の判定と件数のカウント ・絶対参照と端数処理	○ ○ ○	○ ○ ○		○ ○ ○	・関数を利用することに興味をもち、積極的に実習に取り組んでいる。 ・利用目的に応じた関数の利用を判断し、適切な処理を行える。 ・基本的な関数の書式や機能を理解している。
第５章　ビジネス情報の処理と分析 [４]グラフの基礎知識	１	・グラフの種類と特徴	○	○		○	・グラフの利用に関心をもち、その種類や特徴を積極的に学ぼうとしている。 ・目的に応じたグラフを的確に判断できる。 ・各種のグラフを作成することができ、グラフの体裁を整える技術を身に付けている。
第５章　ビジネス情報の処理と分析 [５]基本的なグラフの作成	３	・棒グラフの作成 ・折れ線グラフの作成 ・円グラフの作成 ・レーダーチャートの作成	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○		・視覚表現の重要性を理解し、積極的に実習に取り組んでいる。 ・表のデータを分析し、目的にあったグラフを選択できる。 ・各種グラフを作成することができ、体裁を整える技術を身に付けている。
第５章　ビジネス情報の処理と分析 [６]発展的な関数	５	・順位付け ・大きい順・小さい順 ・表の検索 ・文字列の操作 ・日付・時刻の計算	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○		・関数には目的によってさまざまな種類があることを理解し、それを習得しようと積極的に実習に取り組んでいる。 ・目的にあった処理を行うための関数を的確に判断できる。 ・目的に応じた関数を利用して、表を作成できる。 ・それぞれの関数の書式や機能を理解している。
第５章　ビジネス情報の処理と分析 [７]データの整列・検索・抽出	５	・ビジネスとデータベース ・表計算ソフトのデータベース機能 ・データの整列 ・データの検索 ・データの抽出	○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○	 ○ ○ ○	○ ○	・表のデータを分析に利用することに興味を持ち、整列・検索・抽出の技法を身に付けようと、積極的に実習に取り組んでいる。 ・利用目的に応じたデータを取り出すための手法を、的確に判断できる。 ・条件に応じた整列・検索・抽出ができる。 ・整列・検索・抽出といった用語を理解し、的確に操作につなげられる。
第５章　ビジネス情報の処理と分析 [８]表計算ソフトのデータベース関数	３	・データベース関数 ・データベース関数の活用 ・その他の技法	○ ○ ○	○ ○ ○	 ○ ○	○	・データを検索・集計するための技法を身に付けようとして、積極的に実習に取り組んでいる。 ・データの特徴や使用状況、目的に応じて検索・集計の技法を使い分けることができる。 ・目的に応じた技法を使い分け、わかりやすい表を作成できる。
第５章　ビジネス情報の処理と分析 [９]表計算ソフトのデータベース関数	３	・ビジネスと統計 ・統計で扱うデータ ・全数調査と標本調査	○ ○ ○	○ ○ ○			・ビジネスにおけるデータ分析の重要性に関心をもち、探究心をもって学習に臨んでいる。 ・統計の考え方を理解し、有用な情報を判断できる。

単元名と単元内容	配当時間	学習内容・学習のポイント	評価規準				備考（到達目標・評価の観点・留意点など）
			a	b	c	d	
第５章　ビジネス情報の処理と分析 [10]表計算ソフトのデータベース関数	3	・統計資料の傾向を捉える数値 ・基本統計量 ・表計算ソフトの活用	○ ○ ○	○ ○	 ○	○ ○	・データの分析に興味をもち、探究心をもって実習に取り組んでいる。 ・収集したデータの特徴や傾向を、理論的に説明できる。 ・表計算ソフトの分析ツールを活用して、データ分析を行うことができる。 ・平均値・中央値・分散・標準偏差といった用語を理解し、取り扱うことができる。
第５章　ビジネス情報の処理と分析 [11]表計算ソフトのデータベース関数	2	・ヒストグラムの作成 ・散布図の作成	○ ○		○ ○		・視覚表現の重要性を理解し、積極的に実習に取り組んでいる。 ・統計の考え方を理解し、適切なグラフを選択できる。 ・分析目的に合わせて、的確なグラフを作成できる。
第５章　ビジネス情報の処理と分析 [12]表計算ソフトのデータベース関数	4	・時系列データ ・時系列分析とグラフ化 ・時系列分析と変化の大きさ ・移動平均法による時系列分析と需要予測	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○		○ ○ ○ ○	・ビジネスにおける将来の予測の重要性に関心をもち、探究心をもって実習に取り組んでいる。 ・作成したグラフなどを基に、その傾向を判断することができる。 ・将来予測の手法を理解し、データの分析を行うことができる。
第６章　プレゼンテーション [１]プレゼンテーションの技法	7	・プレゼンテーションとは ・目的に応じたプレゼンテーション ・話による表現の重要性 ・話の準備 ・話し方の技術 ・各種機器の活用 ・リハーサル	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	・プレゼンテーションの重要性を理解し、その知識と技法の取得を目指して意欲的に取り組んでいる。 ・相手に伝わる話をするために必要となる話の組み立てや資料の準備、効果的な話し方などを的確に判断することができる。 ・プレゼンテーションの目的に適した話し方ややり取りを行うことができる。
第６章　プレゼンテーション [２]ビジネスとプレゼンテーション	10	・プレゼンテーションソフト ・提示資料の作成 ・効果的なスライドの設定 ・スライドの実行 ・シナリオの作成 ・配布資料の作成	○ ○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○	・積極的に実習に取り組み、目的に応じた技法を習得しようと努めている。 ・伝達内容に適した提示方法を選択することができる。 ・効果的な資料を作成するための、プレゼンテーションソフトの操作方法を身に付けている。

評価規準：a 関心・意欲・態度　b 思考・判断・表現　c 技能　d 知識・理解

教科	科目	学年	履修形態	単位数	その他
公民	社会教養	3	選択Ⅱ	3	

使用教科書	実教出版「最新政治・経済」	使用副教材	増進堂「完成ワーク社会」
科目の目標	人間の尊重と科学的な探究の精神に基き，広い視野に立って現代の社会と人間についての理解を深め，現代社会の基本的な問題について主体的に考察し公正に判断するとともに、自ら人間としての在り方生き方について考察する力の基礎を養い，良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。		
学習の到達目標	社会的事象について、客観的な理解を深めるとともに、それぞれの事象に対して多面的・多角的な考察ができる力を養成する。		
学習の進め方	現代の政治・経済についての基本的な知識を学習する。新聞やニュースなど身近な問題も扱い、現代社会の諸問題等について調べたりまとめたりする作業もある。考えや意見を述べる場合もある。分野の内容や進度等、状況に応じてプリント・資料配布で授業に代える場合もある。		
学習の留意点	必ず黒板の内容はノートに書き写し、教員の話をしっかり聞くこと。また、説明がわからないときや、漢字が読めないときなど、困ったときは遠慮せずに質問すること。調査や発表についても主体的に取り組み、自分の意見や考えを積極的に発表すること。		

評価規準	観点別	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
	評価の観点	現代の政治、経済、国際関係に対する関心を高め､意欲的に課題を追求するとともに､国家・社会の一員として平和で民主的な社会生活の実現と推進について客観的に考察しようとしている。	現代の政治、経済、国際関係に関わる事柄から課題を見いだし、その本質や特質、望ましい解決の在り方について広い視野に立って多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な立場を踏まえ、公正に判断して､その家庭や結果を様々な方法で適切に表現している。	現代の政治、経済、国際関係に関わる資料を様々なメディアを通して収集し､有用な情報を適切に選択して､効果的に活用する｡授業における知識や情報を的確にまとめ、学習に活用している。	現代の政治、経済、国際関係に関する基本的な事柄や、本質、特質及び動向を捉える基本的な概念や理論を理解し､その知識を身に付けている。
	比重	15%	15%	10%	60%
	評価方法	○関心・意欲・態度・・・課題に取り組む姿勢、レポートやノートテイキング、日々の授業の中で評価する。 ○思考・判断・表現・・・定期考査や日々の授業での取組、ノートやワークシート等での取組で評価する。 ○技能・・・・・・・・・定期考査や日々の授業での取組、グループ発表等で評価する。 ○知識・理解・・・・・・定期考査や日々の学習課題で評価する。			

単元	頁	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	定期考査 前期 中間	定期考査 前期 期末	定期考査 後期 中間	定期考査 後期 期末
1　人権と民主主義	8	■												■			
2　日本国憲法	16	■												■			
3　国会・選挙	32		■											■			
4　内閣・裁判所・三権分立	34		■												■		
5　地方自治	40			■											■		
6　資本主義経済	72			■												■	
7　国民経済	76				■											■	
8　金融・財政・社会保障	88				■												■
9　国際社会	122					■											■
10　時事問題		■	■	■	■	■	■	■	■	■	■			■	■	■	■

単元名と単元内容	配当時間	学習内容・学習のポイント	評価規準				備考
			a	b	c	d	(到達目標・評価の観点・留意点など)
1　人権と民主主義	3	近代民主主義の発達と現代の人権について学習する。	○	○	○	○	
2　日本国憲法	3	日本国憲法の成立と基本的な人権について学習する。	○	○	○	○	
3　国会・選挙	3	国会の仕組みと選挙制度について学習する。	○	○	○	○	
4　内閣・裁判所・三権分立	3	三権分立の仕組みと内閣及び裁判所の仕組みについて学習する。	○	○	○	○	
5　地方自治	3	地方自治の仕組みと住民の権利、地方財政の仕組みについて学習する。	○	○	○	○	
6　資本主義経済	3	資本主義経済の特色や企業の経済活動、景気の変動の仕組みについて学習する。	○	○	○	○	
7　国民経済	3	国民経済の循環とその成長について学習する。産業分類について学習する。	○	○	○	○	
8　金融・財政・社会保障	3	中央銀行の機能と金融政策、財政と租税、社会保障について学習する。	○	○	○	○	
9　国際社会	3	国際連合や国際政治・国際経済の仕組みについて学習する。	○	○	○	○	
10　時事問題	54	新聞やニュースなど「時事問題」を扱い、現代の社会で起きている事象について、関連する知識とともに学習する。	○	○	○	○	調べ学習やレポート作成、グループ学習なども行います。

評価規準：a 関心・意欲・態度　b 思考・判断・表現　c 技能　d 知識・理解

教科	科目	学年	履修形態	単位数	その他
理科	物理研究	3	選択Ⅱ	3	

使用教科書	なし	使用副教材	数研出版「リードα物理基礎・物理」
科目の目標	物理基礎の分野と、必要に応じて基礎を付さない分野を学習し物理学を体系的に学ぶ。２学年で履修した物理基礎をもとに学習内容を復習し、幅を広げながら問題演習を行い科学的思考能力を身に付ける。		
学習の到達目標	１　演習問題を反復し、問題整理、立式、計算という問題解法の過程を処理できるようにする。 ２　物理に関する専門的な知識を習得し、科学的思考能力を身に付ける。 ３　物理的な現象についての観察・実験などを行い、自然現象に対する関心や探求心を高める。		
学習の進め方	教科書・資料集などを参考にしながらプリントを用いた説明を行い、繰り返し問題演習の反復を行う。		
学習の留意点	・物理学の計算は繰り返し学習することが重要であるので、授業内容の復習はしっかりとすること。 ・提出物の期限は守り、配布された資料等は紛失しないよう適切に管理すること。 ・物理学の計算は文字だけを使って答えを導き出すことが多くある。文字式を用いた四則演算など、数学の学習にもしっかりと取り組むこと。		

評価規準	観点別	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
	評価の観点	・学習活動（質疑応答、討論、演習、実験・観察など）に積極的に参加しようとしている。 ・提出物の作成（授業プリントや問題集など）に意欲的に取組もうとしている。	・観察・実験を安全に遂行できる。 ・それぞれの実験操作の意味を理解して、正確に遂行できる。 ・データの取り方が適切である（とりこぼし、計測ミスなどがない）。 ・データの処理が適切である。(有効桁数などが適切である。)	・物理的な知識の活用力・応用力が身に付く。 ・物理的な現象を論述できる。 ・実験レポート等で、授業で学習した内容が正しく理解され知識となってきちんとレポートに反映されている。	・計算ミスなどがあって正しい結論に至らなかったとしても、その思考過程が物理的に正しく、しっかり判断もできている。 ・討論、レポート作成、論述問題などで、科学的な根拠に基づいて述べることができている。
	比重	15%	10%	35%	40%
	評価方法	○関心・意欲・態度・・・課題に取り組む姿勢などをレポートや日々の授業の中で評価する ○思考・判断・表現・・・定期考査や日々の授業での取組、ワークシート等の取組で評価する ○技能・・・・・・・・・実験や日々の授業での取組などで評価する ○知識・理解・・・・・・定期考査や日々の学習課題で評価する			

単元	頁	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	定期考査 前期 中間	定期考査 前期 期末	定期考査 後期 中間	定期考査 後期 期末
１編　力と運動																	
１章　平面内の運動	2	■	■	■										■			
２章　剛体	42	■	■	■	■									■	■		
３章　運動量の保存	60				■	■	■								■		
４章　円運動と万有引力	70					■	■	■							■		
２編　熱と気体																	
１章　気体のエネルギーと状態変化	104							■								■	
３編　波																	
１章　波の伝わり方	129								■							■	
２章　音の伝わり方	138								■							■	
３章　光	154								■							■	
４編　電気と磁気																	
１章　電場	172								■							■	
２章　電流	194								■							■	
３章　電流と磁場	210									■							■
４章　電磁誘導と電磁波	220									■							■
５編　原子																	
１章　電子と光	240									■	■						■
２章　原子と原子核	254									■	■						■

単元名と単元内容	配当時間	学習内容・学習のポイント	評価規準				備考
			a	b	c	d	(到達目標・評価の観点・留意点など)
1編　力と運動							
1章　平面内の運動	3	・加速度は速度の時間変化を表すものであり、ベクトル量であること、したがって向きをもつ量であることが理解する。 ・水平投射について、水平到達距離がどのように求められるか理解する。	○		○	○	実験1 相対速度 実験2 水平投射
2章　剛体	3	・剛体にはたらく力がつりあうための2つの条件を、さまざまな状況にある剛体について、判断する。 ・剛体にはたらく複数の力の合力を求めることができ、与えられた剛体（または物体系）の重心を求める。	○	○		○	
3章　運動量の保存	5	・直線上の衝突、斜め衝突について理解する。また、弾性衝突以外の衝突では、力学的エネルギーが保存されないことを理解する。	○	○	○	○	実験3 反発係数の測定
4章　円運動と万有引力	9	・遠等速円運動の向心力の大きさを、回転半径や角速度を測定することにより、実験で求める。	○	○	○	○	実験4 単振り子
2編　熱と気体							
1章 気体のエネルギーと状態変化	6	・ボイル・シャルルの法則を用いて、状態変化後の気体の圧力、体積、絶対温度を求める。 ・気体が熱運動して壁などの面に力を及ぼすことから圧力の大きさを表す式を導く。	○	○	○	○	実験5 ボイルの法則
3編　波							
1章　波の伝わり方	4	・波の反射の法則・屈折の法則は、ホイヘンスの原理から説明できることを理解する。 ・位相のずれや進行方向の違いなども考慮して、正弦波の式を正しく表す。	○	○		○	
2章　音の伝わり方	4	・音の反射・屈折・回折・干渉について、物理基礎で学んだことをもとにして考える。 ・ドップラー効果が起きるしくみはどのようなものかを理解する。	○	○	○	○	実験6 簡易分光器によるスペクトルの観察
3章　光	10	・回折格子とヤングの実験との同じ点、異なる点を理解し、薄膜、くさび形空気層、ニュートンリングで光が干渉する理由を説明できるようになる。 ・薄膜、くさび形空気層、ニュートンリングで光が干渉する理由を説明できるようになる。	○	○		○	
4編　電気と磁気							
1章　電場	8	・電場と電位のようすを電気力線と等電位面を用いて表すことができ、平行板コンデンサーの充電のメカニズムを説明することができるようになる。	○	○	○	○	実験7 箔検電器
2章　電流	6	・電流 $I=envS$ であることを用いて自由電子の平均移動速度 v を求める。 ・「起電力」と「電圧降下」の意味を理解しており、キルヒホッフの法則を正しく用いて各種の回路計算を行う。	○	○	○	○	実験8 等電位線の作図
3章　電流と磁場	5	・磁気量について、磁気力に関するクーロンの法則や磁場の定義の中でどのように使われているかを通して理解する。 ・「透磁率」、「比透磁率」、「磁束密度」、「磁束」などの物理量の意味を理解する。また、平行電流が及ぼしあう力について、定量的・定性的に理解する。	○	○	○	○	実験9 電流がつくる磁場
4章　電磁誘導と電磁波	8	・磁場は変化すると電場を生じ、電場が変化すると磁場を生じることが理解できるようになる。 ・交流電圧の公式を理解する。また、交流電流・交流電圧の実効値の意味を理解する。	○	○	○	○	実験10 平行電流が及ぼしあう力
5編　原子							
1章　電子と光	5	・原子の発するスペクトルは、原子核のまわりを回る電子がとびとびのエネルギー準位をもつことから説明されることを理解する。	○			○	
2章　原子と原子核	5	・核反応を式に表す。結合エネルギーの定義を知っており、核子1個当たりの結合エネルギーの大きいほうが壊れにくいことを理解する。核分裂反応・核融合反応について、定性的、定量的に理解する。	○	○		○	

評価規準：a. 関心・意欲・態度　b. 思考・判断・表現　c. 技能　d. 知識・理解

教科	科目	学年	履修形態	単位数	その他
理科	生物研究	3	選択Ⅱ	3	

使用教科書	なし	使用副教材	第一学習社「セミナー生物基礎＋生物」 数研出版「改訂版　生物図録」
科目の目標	それぞれの進路実現に必要な生物学の知識を付ける。		
学習の到達目標	1　日常生活や社会との関連を図りながら生物学や生物現象への関心を高める。 2　自分自身の進路実現に必要な生物学的な知識を身に付ける。 3　生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。		
学習の進め方	基礎的な事項の確認と問題演習を並行して行う。また必要に応じて基礎を付さない生物の分野についても触れ、受験にも対応した内容を行う。		
学習の留意点	・問題演習を中心に行うので、予習・復習をしっかりとしておくこと。 ・教科書の図などを利用することがあるので、忘れ物をしないようにすること。 ・課題が出された場合は、期日までに必ず提出すること。		

評価規準	観点別	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
	評価の観点	・学習活動（質疑応答、討論、演習、実験・観察など）に積極的に参加し、自分の考えを深めようとしている。 ・提出物の作成（レポートや授業ノートなど）に意欲的に取り組み、自分の考えを表現しようとしている。 ・生物学の内容と他教科で学ぶ内容や実際社会で起こっている現象を関連づけて考えようとしている。	・実験結果や既知の知識から論理的な思考をし、考察することができている。 ・討論、レポート作成、論述問題などで、科学的な根拠に基づいて述べることができている。 ・図や表を読み取り、必要な情報を取り出して論理的な結論を導き出している。	・観察・実験を安全に遂行できる。 ・それぞれの実験操作の意味を理解して、正確に遂行できる。 ・データの取り方が適切である（とりこぼし、計測ミスなどがない）。 ・観察の仕方やレポートの書き方が適切である。	・生物学的な知識の活用力・応用力が身に付いている。 ・生物学的な現象を論述できる。 ・実験レポート等で、授業で学習した内容が正しく理解され知識となってきちんと反映されている。
	比重	25%	30%	25%	20%
	評価方法	○関心・意欲・態度・・・行動観察や提出物、及び定期考査の選択問題などを手がかりに評価する ○思考・判断・表現・・・行動観察や提出物、及びプレゼンテーション、定期考査の論述問題などで評価する ○技能・・・・・・・・・実験レポートや定期考査のグラフ問題などで評価する ○知識・理解・・・・・・行動観察や提出物、及び定期考査の論述問題などを手がかりに評価する			

単元	頁	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	定期考査 前期 中間	定期考査 前期 期末	定期考査 後期 中間	定期考査 後期 期末
生物の特徴（生物基礎分野）	2	■												■			
細胞（生物分野）	124	■												■			
生命現象とタンパク質（生物分野）	140		■											■			
同化（生物分野）	162		■											■			
異化（生物分野）	182			■											■		
遺伝子とその働き（生物基礎分野）	18				■										■		
遺伝情報の発現（生物分野）	200					■	■								■		
有性生殖（生物分野）	230						■								■		
発生（生物分野）	252						■								■		
生物の体内環境（生物基礎分野）	42							■								■	
植物の環境応答（生物分野）	286							■								■	
動物の反応と行動（生物分野）	306								■							■	
植生の多様性と分布（生物基礎分野）	80								■							■	
生態系とその保全（生物基礎分野）	104								■	■							■
生態と環境（生物分野）	340									■							■
生物の進化（生物分野）	370									■							■
生物の系統（生物分野）	392										■						■

単元名と単元内容	配当時間	学習内容・学習のポイント	評価規準				備考
			a	b	c	d	(到達目標・評価の観点・留意点など)
生物の特徴（生物基礎分野）	4	生物に共通する特徴について学習する。	○			○	
細胞（生物分野）	4	電子顕微鏡レベルの細胞小器官について学ぶ。同時に顕微鏡の使い方やミクロメーターの計算についても触れる。	○	○	○	○	実験１ 生物群体の観察
生命現象とタンパク質（生物分野）	4	生物の生命現象には酵素を始めとしたタンパク質が重要な働きをしていることを学ぶ。	○		○		実験２ 脱水素酵素の実験
同化（生物分野）	4	代表的な同化である光合成を中心に、無機物から有機物を作り出す過程を学ぶ。その際、光エネルギーを必要とするか、二酸化炭素を取り込むかなどにも注目する。				○	
異化（生物分野）	4	代表的な異化である呼吸を中心に、有機物からエネルギーを取り出す過程を学ぶ。また発酵など他の異化についても触れる。				○	
遺伝子とその働き（生物基礎分野）	5	遺伝子の本体である DNA について、構造および遺伝情報はその塩基配列にあることを理解する。	○			○	
遺伝情報の発現（生物分野）	5	転写と翻訳の概要から、生命現象において重要なタンパク質の合成について学習する。また遺伝情報は正確に複製されて受け継がれること、それぞれの細胞では全ての遺伝子が発現しているわけではないことについて学習する。		○		○	
有性生殖（生物分野）	6	有性生殖の過程について学ぶ。体細胞分裂と減数分裂の違いに注意し、受精した際に２ｎになることを理解する。	○		○		
発生（生物分野）	6	生物の発生について、ウニやカエルを題材に学ぶ。	○	○		○	実験３ ウニの発生の観察
生物の体内環境（生物基礎分野）	5	体液について学び、循環器についても理解を深める。自律神経系と内分泌系についても学習する。さらに免疫を始め生体防御について学習する。				○	
植物の環境応答（生物分野）	5	植物ホルモンや発芽･開花の要件を学ぶ。	○	○			
動物の反応と行動（生物分野）	7	受容器で刺激を受け取ってから効果器が反応するまでの過程について学ぶ。代表的な受容器である耳や目については詳しく学ぶ。		○	○	○	実験４ ブタの眼球の解剖
植生の多様性と分布（生物基礎分野）	4	植生の構造について学習する。世界のバイオームや生育する代表的な植物についても考える。	○			○	
生態系とその保全（生物基礎分野）	4	生態系を成り立たせている要因について学ぶ。無機物の循環についても考える。	○	○			
生態と環境（生物分野）	5	環境と生物、生物と生物の関係性について学ぶ。また関係の深さから環境保護についても考える。	○	○	○		
生物の進化（生物分野）	5	地球上に生命が誕生してから今までの進化の軌跡について学ぶ。また進化が環境に適応するために起こったことも確認する。	○	○			
生物の系統（生物分野）	4	地球上に存在する多種多様な生物を分類する方法を学ぶ。命名法やドメインについても触れる。		○		○	

評価規準：a.関心・意欲・態度　b.思考・判断・表現　c.技能　d.知識・理解

教科	科目	学年	履修形態	単位数	その他
商業	簿記	3	選択Ⅱ・Ⅴ	5	

使用教科書	東京法令出版「簿記」	使用副教材	東京法令出版社 「完全段階式標準検定簿記問題集　全商３級」
科目の目標	簿記に関する知識と技術を習得させ、その基本的な仕組みについて理解させるとともに、適正な会計処理を行う能力と態度を育てる。		
学習の到達目標	１ 企業における日常発生する取引を合理的・能率的に記帳する知識と技術を身に付ける。 ２ 取引の仕分けから勘定の記入を経て決算に至るまでの簿記の基本的な仕組みについて理解を深める。また会計帳簿、貸借対照表や損益計算書を作成する。		
学習の進め方	授業形態は座学の授業と実習の授業を交互で行う。		
学習の留意点	１　座学と実技の授業を交互に行う。話を聞くときと作業をするときのメリハリをつけること。 ２　座学の授業実施時には毎回小テストを行う。必ず復習を行うこと。 ３　授業はプリントを使用して行うため、指定したファイルに綴じて保管すること。 ４　提出物の提出期限は必ず守ること。		

評価規準	観点別	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
	評価の観点	企業における取引の記録・計算・整理について関心を持ち、その知識と技術の習得を目指して主体的に、かつ意欲的に取り組むとともに、ビジネスの諸活動を計数的に把握する実践的な態度を身に付けようとしている。	企業における取引の記録･計算･整理に関する諸問題の解決を目指して自ら思考を深め、基礎的･基本的な知識と技術を活用して適切に判断し､創意工夫する能力を身に付けている。また､複式簿記を利用して損益計算書･貸借対照表を作成し､開示することで表現できる。	企業における取引の記録･計算・整理に関する基礎的・基本的な技術を身に付け､ビジネスの諸活動を計数的に把握し､適切に処理することができる。	企業における取引の記録･計算・整理に関する基礎的・基本的な知識を習得し､仕訳や転記､決算など簿記の基本的な仕組みについて理解している。
	比重	25%	25%	25%	25%
	評価方法	○関心・意欲・態度・・・日々の授業へ取り組む態度を評価する。(提出物・持ち物・出席状況　等) ○思考・判断・表現・・・日々の授業での発言、定期考査、提出物の記述状況で評価する。 ○技能・・・小テスト、定期考査、日々の授業の発言で評価する。 ○知識・理解・・・小テスト、定期考査、日々の授業の発言で評価する。			

単元	頁	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	定期考査 前期 中間	定期考査 前期 期末	定期考査 後期 中間	定期考査 後期 期末
第Ⅰ編　簿記の基本																	
第１章　企業の簿記	2	■												■			
第２章　資産・負債・純資産（貸借対照表）	8	■												■			
第３章　収益・費用	14	■												■			
第４章　取引と勘定	19		■											■			
第５章　仕訳と勘定への記入	29		■											■			
第６章　仕訳帳と総勘定元帳	33		■											■			
第７章　試算表	39			■											■		
第８章　決算	45			■											■		
第Ⅱ編　各種取引の処理																	
第１章　現金・預金の記帳	62				■										■		
第２章　商品売買の記帳	83				■										■		
第３章　掛取引の記帳	99				■										■		
第４章　手形取引の記帳	110					■									■		
第５章　その他の債権・債務の記帳	125					■									■		
第６章　有価証券の記帳	140						■									■	
第７章　固定資産の記帳	145						■									■	
第８章　販売費および一般管理費の記帳	151						■									■	
第９章　個人企業の純資産の記帳	155							■								■	
第 10 章　個人企業の税金の記帳	159							■								■	
第Ⅲ編　決算（１）																	
決算整理（その１）	168								■								■
第Ⅳ編　会計帳簿（１）																	
第１章　帳簿	204									■							■
第２章　３伝票制による記帳	209										■						■

単元名と単元内容	配当時間	学習内容・学習のポイント	評価規準 a	評価規準 b	評価規準 c	評価規準 d	備考（到達目標・評価の観点・留意点など）
第Ⅰ編　簿記の基本 第１章　企業の簿記	3	・簿記の意味 ・簿記の目的 ・簿記の種類 ・簿記の歴史 ・簿記の必要性 ・簿記の前提	○ ○ ○ ○ ○ ○			○ ○ ○ ○ ○ ○	・企業における簿記の意味・目的・種類・歴史について関心を持ち、自ら進んで情報を収集したり整理したりして学習しようとしている。 ・企業における簿記の意味・目的・種類・歴史について基礎的な知識を深めることは、簿記を学ぶ上で重要な役割を果たすことを理解している。
第Ⅰ編　簿記の基本 第２章　資産・負債・純資産 ―貸借対照表―	5	・資産 ・負債 ・純資産 ・貸借対照表 ・当期純損益の計算		○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	・資産・負債・純資産・貸借対照表・当期純損益の計算について、進んでその基礎情報を入手して活用し、その方法を身に付けようとしている。 ・資産・負債・純資産・貸借対照表・当期純損益の計算について把握し、基礎情報を入手している。 ・資産・負債・純資産・貸借対照表・当期純損益の計算について把握し、基礎情報を入手する重要性やその方法を理解している。
第Ⅰ編　簿記の基本 第３章　収益・費用 ―損益計算書―	5	・収益 ・費用・当期純損益の計算 ・損益計算書		○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	・簿記の基礎概念の収益や費用について、自ら考えを深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用し、損益計算書を作成することができる。 ・基本的な理解や基礎的・基本的な損益計算の作成方法などを理解している。
第Ⅰ編　簿記の基本 第４章　取引と勘定	5	・取引の意味 ・勘定の意味 ・勘定の種類と勘定科目 ・勘定口座 ・勘定への記入法 ・取引要素の結合関係 ・貸借平均の原理		○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	・帳簿に記入する企業の取引に関する基礎的・基本的な知識と技術を活用し、正確に勘定へ記入する方法を身に付けようとしている。また、T 字勘定へ正確に記入することができる。 ・帳簿に記入する企業の取引に関する基礎的・基本的な知識と技術を理解し、適切な処理法を説明することができる。 ・帳簿の作成の仕方を理解している。
第Ⅰ編　簿記の基本 第５章　仕訳と勘定への記入	5	・仕訳 ・転記	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○	・仕訳の意味や勘定口座に転記する方法について興味を示し、積極的に調べたりして、記入のしかたを習得しようとしている。 ・仕訳の意味や勘定口座に転記する方法の基礎的・基本的な知識を深め、その記入のしかたを正確に把握しようとしている。また取引を仕訳として表現できる。
第Ⅰ編　簿記の基本 第６章　仕訳帳と総勘定元帳	4	・仕訳帳 ・総勘定元帳		○ ○			・仕訳帳の形式・記入法を理解し、記帳できる。 ・総勘定元帳の意味を明らかにし、仕訳帳からの転記のしかたを身に付けている。 ・試算表の役割や種類についての知識を深め、その作成のしかたを身に付けている。また計算の正確性を試算表の作成によって表現できる。
第Ⅰ編　簿記の基本 第７章　試算表	3	・試算表の意味、作成方法 ・試算表で誤りを発見する方法	○ ○		○ ○		・試算表の役割や種類についての知識を深め、その作成のしかたを身に付けている。また計算の正確性を試算表の作成によって表現できる。
第Ⅰ編　簿記の基本 第８章　決算	5	・決算の意味 ・決算の手続き ・試算表 ・決算の本手続き ・決算報告の手続き	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	・決算に関心を持ち、その帳簿の締め切りなどの手続きや記帳を正確に行おうとしている。 ・決算を行う上で必要な知識や技術を身に付け、帳簿の締め切りを含む基本的な手続きや記帳処理について説明することができる。 ・決算整理仕訳や決算振替仕訳などの記帳の処理のしかたを理解している。
第Ⅱ編　各種取引の処理 第１章　現金・預金の記帳	8	・現金 ・現金出納帳 ・現金過不足 ・当座預金 ・当座借越 ・当座預金出納帳 ・その他の預金 ・小口現金	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○		○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○		・簿記上の現金の入金・出金・当座預金・当座借越の基本的な取引に関心を示し、意欲的にその記帳のしかたを身に付けようとしている。 ・簿記上の現金の入金・出金・当座預金・当座借越の基本的な取引について理解し、正確に記帳する方法を説明することができる。
第Ⅱ編　各種取引の処理 第２章　商品売買の記帳	7	・分記法 ・３分法 ・仕入帳 ・売上帳 ・商品有高帳		○ ○ ○ ○ ○			・商品売買の取引についての知識を深め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して、その記帳のしかたを判断して処理している。

単元名と単元内容	配当時間	学習内容・学習のポイント	評価規準 a	b	c	d	備考（到達目標・評価の観点・留意点など）
第Ⅱ編　各種取引の処理 第３章　掛取引の記帳	8	・売掛金勘定と売掛金元帳 ・買掛金勘定と買掛金元帳 ・貸し倒れ		○ ○ ○		○ ○ ○	・掛取引をする上で欠くことのできない基礎的・基本的情報を入手し、その活用法を見出そうとしている。またその内容を仕訳を用いて適切に表現できる。 ・掛取引の基礎的・基本的な知識と技術を把握し、その方法も理解している。
第Ⅱ編　各種取引の処理 第４章　手形取引の記帳	7	・手形の種類 ・約束手形の記帳 ・為替手形の記帳 ・手形の裏書と割引 ・受取手形記入帳と支払手形記入帳		○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	・手形の種類（約束手形と為替手形）や手形の裏書・割引や記入帳に関する知識を高め、基礎的・基本的な知識と技術を活用して、適切に判断し処理している。 ・手形の種類（約束手形と為替手形）や手形の裏書・割引や記入帳に関する基礎的・基本的な知識と技術を活用し、帳簿作成のしかたを説明することができる。また手形取引を仕訳を用いて表現できる。 ・手形の種類や手形の裏書・割引や記入帳の基礎的・基本的な技術を身に付け、適切な記帳処理のしかたについて理解している。
第Ⅱ編　各種取引の処理 第５章　その他の債権・債務の記帳	5	・前払金と前受金 ・未収金と未払金 ・貸付金と借入金 ・手形貸付金と手形借入金 ・立替金と預り金 ・仮払金と仮受金 ・商品券			○ ○ ○ ○ ○ ○ ○		・前払金勘定や前受金勘定、借用証書や手形による金銭の貸借についての基礎的・基本的な知識を身に付け、正確に記帳して処理することができる。
第Ⅱ編　各種取引の処理 第６章　有価証券の記帳	6	・有価証券 ・有価証券の買い入れ ・有価証券の売却		○ ○ ○		○ ○ ○	・有価証券に関する取引についての基礎的・基本的知識を活用して適切に判断し、記帳の処理能力を高めようとする。また有価証券に関する取引を仕訳を用いて適切に表現できる。 ・有価証券に関する取引についての基礎的・基本的知識を身に付け、その記帳処理を理解している。
第Ⅱ編　各種取引の処理 第７章　固定資産の記帳	3	・固定資産 ・固定資産の取得 ・固定資産の売却 ・固定資産台帳				○ ○ ○ ○	・固定資産の基本的な取引を行うための知識を身に付け、その記帳の基本的・基礎的な処理について理解している。
第Ⅱ編　各種取引の処理 第８章　販売費および一般管理費の記帳	3	・販売費および一般管理費 ・販売費および一般管理費の記帳		○ ○			・販売費および一般管理費の分類や記入技術を活用し、正確に記帳している。
第Ⅱ編　各種取引の処理 第９章　個人企業の純資産の記帳	2	・個人企業の純資産 ・追加元入れと引き出し		○ ○	○ ○	○ ○	・個人企業の純資産や追加元入れと引き出しについての基礎的・基本的な知識を深め、その記帳処理を身に付けようとしている。またその取引を適切に表現できる。 ・個人企業の純資産や追加元入れと引き出しの基礎的・基本的な知識を深め、その記帳処理を身に付け、純資産の増減について説明することができる。 ・個人企業の純資産や追加元入れと引き出しについての基礎的・基本的な知識や記帳処理を理解している。
第Ⅱ編　各種取引の処理 第 10 章　個人企業の税金の記帳	4	・個人企業の税金 ・所得税・住民税 ・事業税・固定資産税・印紙税 ・消費税		○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○	・個人企業の税金の種類や役割についての知識を深め、積極的に記帳方法を身に付けようとしている。またその税金に関する取引を適切に表現できる。 ・個人企業の税金の種類や役割に関する基礎的・基本的な知識をもとに、記帳方法を身に付け、適切に処理することができる。 ・個人企業の税金の種類や役割に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、記帳の重要性や方法を理解し、適切に処理できる。
第Ⅲ編　決算① 決算整理（その１）	10	・決算整理の意味 ・商品に関する決算整理 ・貸し倒れ ・固定資産の減価償却費の計算と記帳 ・現金過不足の整理 ・引出金の整理 ・棚卸表 ・８けた精算表の作成 ・帳簿の締め切り（帳簿決算） ・財務諸表	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○	・基本的な決算整理に加え、決算整理や決算整理事項の意味や仕入勘定の役割などを自ら進んで調べたり考えたりし、その決算処理のしかたを学習しようとしている。 ・決算整理を含んだ決算についての知識と技術をもとに、その決算のしかたを判断し、処理する能力を高めようとしている。またその内容を精算表や財務諸表を作成することによって適切に表現できる。 ・決算整理を含んだ決算について、さまざま角度から考えながら、その決算の方法を把握し、その処理能力も正確に身に付けている。 ・決算整理を含んだ決算について基礎的な知識を身に付け、その決算の方法を正確に理解している。
第Ⅳ編　会計帳簿① 第１章　帳簿	5	・帳簿の種類 ・分課制度と帳簿組織 ・帳簿の形式 ・コンピュータの利用		○ ○ ○ ○			帳簿の種類や分課制度、帳簿組織・帳簿の形式に関する経営管理に必要な知識を深め、効果的に活用できる能力を身に付けている。またその内容を適切に表現できる。
第Ⅳ編　会計帳簿① 第２章　３伝票制による記帳	5	・証ひょう ・伝票 ・仕訳伝票の利用 ・３伝票制		○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○		・３伝票制による取引の記帳や集計と転記について、記帳はどうするかの判断を身に付けている。また取引から起票を行うことで内容を適切に表現できる。 ・３伝票制による取引の記帳や集計と転記についての基礎的・基本的な記帳処理を身に付け、活用することができる。

評価規準：a 関心・意欲・態度　b 思考・判断・表現　c 技能　d 知識・理解

教科	科目	学年	履修形態	単位数	その他
国語	国語一般	3	選択Ⅲ	3	

使用教科書		使用副教材	尚文出版「２＋錬成現代文」 尚文出版「２＋錬成古文」 尚文出版「２＋錬成漢文」
科目の目標	国語全般において読み取る力や推察する力、言語感覚などを育成するとともに、問題演習を通して現代文、古典の両方で受験に対応できる力を育てる。		
学習の到達目標	１　文章を正確に読むための知識や方法を身に付け、様々な問題に的確に答えることができる。 ２　古典の文法事項を理解し、それを活用して本文の内容を理解できる。 ３　古典の常識等を理解し、本文の読解に活用することができる。		
学習の進め方	・読む際の注意点や文法事項について学習する。 ・学習したことを用いて問題演習に取組み、自分の出した答えを周りと共有する。 ・自分が出した答えについて他者の意見を踏まえて再考し、理解を深める。		
学習の留意点	・授業規律をしっかりと守り、集中して積極的に授業に参加すること。 ・ノートを活用できるよう板書をし、提出物は期限までに必ず提出すること。 ・教科担任の説明と指示・級友の発表を集中して聞くこと。 ・意見発表・グループ活動などには特に真剣に取組むこと。		

評価規準	観点別	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
	評価の観点	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。		必要な情報や技能を用い、課題に応じた適切な表現による文書を書き、自分の考えを深め、発展させている。	近代以降の文章を読み取ることや、古典を読んで思想や感情を的確に捉えることを通して、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。
	比重	20%		20%	20%	40%
	評価方法	○関心・意欲・態度・・・課題に取組む姿勢などを日々の授業や小テストなどで評価する。 ○話す・聴く能力・・・・日々の授業での取組みで評価する。 ○知識・理解・・・・・・定期考査や小テストなどで評価する。				

単元	頁	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	定期考査 前期 中間	定期考査 前期 期末	定期考査 後期 中間	定期考査 後期 期末
古文　ステップ１		■	■	■										■			
漢文　ステップ１		■	■	■										■			
現代文　ステップ１		■	■	■	■									■	■		
古文　ステップ２					■	■	■								■		
漢文　ステップ２					■	■	■								■	■	
現代文　ステップ２					■	■	■	■								■	
古文　ステップ３								■	■							■	
漢文　ステップ３								■	■							■	
現代文　ステップ３								■	■	■							■

過去問研究																	

単元名と単元内容	配当時間	学習内容・学習のポイント	評価規準			備考
			a	b	c	(到達目標・評価の観点・留意点など)
古文　ステップ１ 「十訓抄」「発心集」「方丈記」「一休ばなし」「宇治拾遺物語」「平家物語」「今昔物語集」「おくのほそ道」「紫式部日記」「玉勝間」文法の問題（１）	８	用言の確認（動詞、形容詞、形容動詞） 助動詞の学習（自発・可能・受身・尊敬、使役・尊敬、過去、完了、推量、推定）	○	○	○	用言の活用ができる。 意味が複数ある助動詞について理解し、適切に読み取ることができる。
漢文　ステップ１ 「呂氏春秋」「板橋三娘子」「孟子」「論衡」「戦国策」「論語」「枕中記」「晏子春秋」「杜工部集」「句形の問題（１）」	８	文法の学習（否定形、禁止形、二重否定、部分否定、全部否定、疑問形、反語形）	○	○	○	学習した文法事項について理解し、適切に読み取ることができる。
現代文　ステップ１ 「日本語の外へ」「仮説力」「詩集とは何か」「あすなろ物語」「布のちから」「言語の脳科学」「塩狩峠」「20 世紀とは何だったのか」「英雄の器」「恋するコンピュータ」「漢字・語句の問題（１）」	８	現代文についての知識を身に付ける（指示内容の把握、筆者の定義、筆者の体験・考え、描写の視点、対比関係と対比の観点、キーワードと要旨、人称、具体と抽象、動作やしぐさと心情、キーワードと論の展開）	○	○	○	接続語や重要語に注目しながら適切に読み解くことができる。
古文　ステップ２ 「落窪物語」「枕草子」「更級日記」「宇津保物語」「土佐日記」「堤中納言物語」「篁物語」「更級日記」「無名抄」「世間胸算用」「文法の問題（２）」	８	助動詞の学習（打消・打消推量、願望、断定、比況） 和歌の修辞法の学習 助詞の学習（格助詞、接続助詞、副助詞、係助詞、終助詞・間投助詞）	○	○	○	意味が複数ある助動詞について理解し、適切に読み取ることができる。 助詞の用法を理解し、適切に読み取ることができる。
漢文　ステップ２ 「説苑」「史記」「伝収録」「淮南子」「白氏文集」「宋清伝」「任相」「孟子」「孔子家語」「戦国策」「句形の問題（２）」	８	文法の学習（使役形、受身形、仮定形、限定形、累加形、比較形、選択形）	○	○	○	学習した文法事項について理解し、適切に読み取ることができる。
現代文　ステップ２ 「日曜日の読書」「失われた道の豊かさ」「都市の感情」「花影の花」「デザインの教科書」「身体の零度」「己を放り込む虚構」「社会学入門」「センセイの鞄」「私の人生観」「漢字・語句の問題（２）」	８	現代文についての知識を身に付ける（具体的な記述、筆者の思い、問題提起と結論、抽象的な描写、強調や疑問形の表現、論点と主張、筆者の観点、分析と新たな視点、登場人物のすれ違い、抽象語の内実）	○	○	○	具体的な記述や抽象的な表現が持つ効果について理解し、適切に読み取ることができる。
古文　ステップ３ 「枕草子」「古今著聞集」「源氏物語」「俊頼髄脳」「雨月物語」「平家物語」「和泉式部日記」「大鏡」「栄花物語」「文法の問題（３）」	８	敬語の学習（敬語の種類、敬意の方向、二重敬語・自敬表現、絶対敬語） 紛らわしい語の識別（「ぬ」の識別、「せ」の識別、「なる・なり」の識別、「けれ」の識別、「らむ」の識別、「に」の識別、「なむ」の識別）	○	○	○	敬語の用法を理解し、適切に読み取ることができる。 紛らわしい語の識別ができる。
漢文　ステップ３ 「戦国策」「鞭駘録」「王右丞集」「淮南子」「十八史略」「荘子」「世説新語」「史記」「続玄怪録」「句形の問題（３）」	８	文法の学習（比較形、選択形、比況形、抑揚形、詠嘆形、願望形） 漢文知識の学習（思想、文章、史伝、小説）	○	○	○	学習した文法事項について理解し、適切に読み取ることができる。
現代文　ステップ３ 「野生の哲学」「人はなぜオカルトを信じるのか」「青桐」「脳から身体・環境へ」「働く女は敵ばかり」「黄金伝説」「文明としての教育」「明治百年」「星々の舟」「生き残る言語」「漢字・語句の問題（３）」	８	現代文についての知識を身に付ける（引用の意図、時代と変化、風景描写と人物、表現形式と論理、本質に迫る記述、作品の象徴性、具体例と一般的な説明、比喩表現、場面と心情、価値・評価と筆者の考え）	○	○	○	対比や場面変化に注目しながら適切に読み取ることができる。
過去問研究	９	学習したことを用いて、様々な問題に取り組む。	○		○	

評価規準：a 関心・意欲・態度 b 話す・聞く能力 c 書く能力 d 読む能力 e 知識・理解

教科	科目	学年	履修形態	単位数	その他
理科	科学と人間生活	3	選択Ⅲ	2	

使用教科書	東京書籍「改訂　科学と人間生活」	使用副教材	なし
科目の目標	自然と人間生活との関わり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割について理解する。		
学習の到達目標	1　身近な事象・現象に関する観察・実験などを通して、科学技術の発展と人間生活との関わりについて理解を深める。 2　科学の基本的な概念や原理・法則を学び、科学的な見方や考え方を養う。 3　科学に対する興味・関心を高める。 4　科学技術の在り方について自身の意思決定のために必要な科学的な知識、能力、態度を身に付ける。		
学習の進め方	身近な科学現象と科学技術の発展について、実生活に即した例を交えながら学ばせる。		
学習の留意点	・用語や図を多く扱うので、しっかりノートをとること。 ・教科書の図などを利用することがあるので、忘れ物をしないようにすること。 ・課題が出された場合は、期日までに必ず提出すること。		

評価規準	観点別	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
	評価の観点	・学習活動（質疑応答、討論、演習、実験・観察など）に積極的に参加しようとしている。 ・提出物の作成（レポートや授業ノートなど）に意欲的に取り組んでいる。 ・集中して授業を受けている。 ・科学技術の在り方や人と生物の関わりに関心を持ち、話し合いや探究活動に意欲的に参加しようとしている。	・実験結果や既知の知識から論理的な思考をし、考察することができている。 ・討論、レポート作成、論述問題などで、科学的な根拠に基づいて述べることができている。 ・実験から得られた事実、文献や Web などから得た情報、自分の考えのそれぞれをはっきり区別して表現できている。	・実験を安全に遂行できている。 ・それぞれの実験操作の意味を理解して、正確に遂行できている。 ・データの取り方が適切である（とりこぼし、計測ミスなどがない）。 ・実験方法やレポートの書き方が適切である。	・科学的な知識の活用力・応用力が身に付いている。 ・科学的な現象を論述できる。 ・実験レポート等で、授業で学習した内容が正しく理解し知識となってきちんと反映されている。
	比重	30%	25%	25%	20%
	評価方法	○関心・意欲・態度・・・行動観察や提出物、及び定期考査の選択問題などを手がかりに評価する ○思考・判断・表現・・・行動観察や提出物、及びプレゼンテーション、定期考査の論述問題などで評価する ○技能・・・・・・・・・実験レポートや定期考査のグラフ問題などで評価する ○知識・理解・・・・・・行動観察や提出物、及び定期考査の論述問題などを手がかりに評価する			

単元	頁	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	定期考査 前期 中間	定期考査 前期 期末	定期考査 後期 中間	定期考査 後期 期末
科学技術の発展	6	■												■			
植物の生育と光	16	■												■			
光シグナルと生物	22	■	■											■			
ヒトの視覚と光	28		■											■			
金属	58			■											■		
プラスチック	66				■	■									■		
資源の再利用	76						■								■		
目に見える光の世界	106							■								■	
光の進み方とその基本的性質	112								■							■	
見えない光とその応用	118									■							■
天体が刻む「時」	146		■											■			
太陽系の構造	152						■								■		
太陽が動かす大気と水	160										■						■

単元名と単元内容	配当時間	学習内容・学習のポイント	評価規準				備考
			a	b	c	d	(到達目標・評価の観点・留意点など)
科学技術の発展	2	日常生活と科学技術の進歩について考察する。	○				
1編　生命の科学							
1章　生物と光							
1　植物の生育と光	3	太陽の光エネルギーを利用して、葉緑体で光合成を行うことを理解する。また光の波長と光合成速度との関係について理解する。	○	○			
2　光シグナルと生物	4	屈性や走性、花芽形成や体内時計に光が関わっていることを学ぶ。	○			○	
3　ヒトの視覚と光	5	ヒトの眼の構造を理解し、2種類の視細胞のはたらきや遠近調節について考える。また脳と視覚の関係を考え、錯覚について理解する。	○		○	○	実験1 盲斑の検出 実験2 錯覚
2編　物質の科学							
1章　材料とその再利用							
1　金属	5	金属の構造や性質について理解し、製錬方法や利用方法について学ぶ。	○	○	○		実験3 様々な金属の特徴
2　プラスチック	5	プラスチックの構造や性質について理解し、利用方法について学ぶ。	○		○	○	実験4 機能性樹脂の特徴
3　資源の再利用	4	循環型社会を目指す必要性と3Rについて理解する。またリサイクルマークについて学ぶ。	○	○		○	
3編　光や熱の科学							
1章　光の性質とその利用							
1　目に見える光の世界	4	光の波長とスペクトルとの関係について理解する。また光の3原色やその応用について理解する。	○		○		
2　光の進み方とその基本的性質	5	異なる物質の境界面で光が反射・屈折するときの法則を理解する。光の回折や干渉についても学ぶ。			○		実験5 分光器と光の観察
3　見えない光とその応用	5	様々な光と利用法について学ぶ。	○	○		○	実験6 偏光板とその利用
4編　宇宙や地球の科学							
1章　身近な天体と太陽系における地球							
1　天体が刻む「時」	4	身近な天体運動と暦の関係を学ぶ。		○		○	
2　太陽系の構造	4	太陽系の天体について、その特徴や地球との比較を行う。	○			○	
3　太陽が動かす大気と水	4	太陽からの熱が地球に与える影響について理解する。	○			○	

評価規準：a. 関心・意欲・態度　b. 思考・判断・表現　c. 技能　d. 知識・理解

教科	科目	学年	履修形態	単位数	その他
家庭	子どもの発達と保育	3	選択Ⅲ	3	

使用教科書	教育図書 「子どもの発達と保育~育つ・育てる・育ちあう」	使用副教材	生活学 Navi 資料＋成分表 2015
科目の目標	子どもの発達の特性や発達過程、保育などに関する知識と技術を習得させ、子どもの発達や子育て支援に寄与する能力と態度を育てる。		
学習の到達目標	1　乳幼児の発達と特徴を理解し、乳幼児の生活と保育などに関する知識と技術を習得している。 2　子どもの健全な成長に関心をもち、子どもに関わる意欲や能力、実践的な態度を身に付けている。		
学習の進め方	座学と実習を並行して行う。町内の施設を訪問しての実習や、外部講師による講演、実習を実施する場合がある。。		
学習の留意点	子どもの遊び等演じる場面が多くあるので恥ずかしがらずに表現すること。また外部機関を訪問した際は、教員、担当者の指示に従い行動すること。		

評価規準	観点別	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
	評価の観点	子どもの身体的･精神的発達や保育について関心をもち、それらを意欲的に学ぼうとしている。	子どもの発達や保育に関わる幅広い知識を身に付け､また実習や考察などを通して子どもの行動を客観的に判断する思考を育み､子どもの成育、行動、感情、生活などについて理解を深めることができる。	子どもの発達や保育に関わる事柄について､実習や観察を通じて知識を深めることができ､子どもを取り巻く問題について推測･考察ができる。これらに関する自身の考えを､レポートなどで表現できる。	子どもの発達や保育に関する幅広い知識を習得し､子どもの行動や生活に関する基本的な事項が理解できている。
	比重	25%	25%	25%	25%
	評価方法	○関心・意欲・態度・・・授業態度・レポート・ワークシート・実習制作物 ○知識・理解・・・・・・定期考査・レポート ○思考・判断・表現・・・授業中の発言・レポート・ワークシート ○技能・・・・・・・・・授業態度（主に実習）・レポート			

単元	頁	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	定期考査 前期 中間	定期考査 前期 期末	定期考査 後期 中間	定期考査 後期 期末
第１章　子どもの発達の特性	6																
①生涯発達における乳幼児期の重要性	6	■													■		■
②発達と環境	10		■												■		■
③発達観・児童観とは	15		■												■		■
第２章　子どもの発達過程	22																
①身体発育と運動機能の発達	22			■											■		■
②乳幼児期の体の発育	27			■											■		■
③乳幼児期の発達の特徴	36			■											■		■
④人間関係の発達	46			■											■		■
⑤心の発達	54				■	■									■		■
第３章　子どもの生活	60																
①子どもの健康と生活	60						■	■									■
②子どもの食事	68								■	■							■
③子どもの衣服	80									■							■
④子どもの遊びの生活	85									■							■
⑤子どもの健康管理	94									■							■
第４章　子どもの保育	110			■	■	■	■	■	■	■	■				■		■
第５章　子どもの福祉と子育て支援	132										■						■

単元名と単元内容	配当時間	学習内容・学習のポイント	評価規準				備考
			a	b	c	d	(到達目標・評価の観点・留意点など)
保育とは 第１章　子どもの発達の特性 ①生涯発達における乳幼児期の重要性 ②発達と環境 ③発達観・児童観とは	15	保育を学ぶ意味 乳幼児期の大切さ 発達を支える環境 発達と環境 多様な環境の中で育つ子ども 保育にみる発達観と児童観	○	○	○	○ ○	・ライフステージにおける乳幼児期の位置付けを確認し、生涯発達のために乳幼児期が大切であることを理解する。 ・子どもは様々な環境の影響を受けながら発達していくことを知る。
第２章　子どもの発達過程 ①身体発達と運動機能の発達 ②乳幼児期のからだの発育 ③乳幼児期の発達の特徴 ④人間関係の発達 ⑤心の発達	15	発育と発達と成長 乳幼児期の発達の特徴 乳幼児期の生理的特徴 乳幼児期の発達 人との絆の形成・自立と人間関係 情緒の発達・認知機能の発達	○ ○	○ ○	○ ○	○ ○ ○	・乳幼児期の発育について理解する。 ・乳幼児期の発達と環境の関係を理解する。愛着関係の形成過程について知り、その重要性を理解する。
第３章　子どもの生活 ①子どもの健康と生活 ②子どもの食事 ③子どもの衣服 ④子どもの遊びと生活 ⑤子どもの健康管理	28	大人の役割・養護の具体的な方法 基本的生活習慣の習得 栄養と食生活、乳幼児の食事 衣服の役割と条件、衣服の選択 子どもの遊び、児童文化財、住環境 子どもの健康、病気、予防、危険予測	○ ○ ○ ○ ○ ○	○ ○	○ ○ ○	○ ○	・養護の必要性・目的を理解し、発達の段階に応じた適切な養護の仕方を考えることができる。 ・子どもの衣・食・住生活について理解し、安全な生活について考えることができる。
第４章　子どもの保育 ①保育の意義と目標 ②保育の方法 ③保育の環境	18	保育とは何か 保育の目的と目標 子どもの健やかな育ちを支える 発達過程に応じた保育 子どもが育つ環境の変化 保育実習	○ ○ ○	○ ○	○ ○ ○	○ ○	・人間形成の基礎を培う乳幼児期の大切さと保育の意義について考える。 ・保育の方法を確認しながら子どもと一緒に遊び、子どもについて理解を深める。
第５章　子どもの福祉と子育て支援 ①子どもの福祉 ②子育て支援	5	児童福祉の理念と関係法規・制度 福祉にかかわる施設 これからの子どもの福祉	○ ○	○	○ ○	○ ○	・児童福祉法や児童福祉関連施設の概要について理解する。 ・男女共同社会における、これからの福祉について考える。

評価規準：a. 関心・意欲・態度　b. 思考・判断・表現　c. 技能　d. 知識・理解

教科	科目	学年	履修形態	単位数	その他
国語	国語表現	3	選択Ⅳ	3	

使用教科書	大修館書店「国語表現」		使用副教材	大修館書店「国語表現　基礎練習ノート」	
科目の目標	国語で的確かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。				
学習の到達目標	1　情報の収集・分析をし、自分の考えをまとめたり深めたりすることができる。 2　相手の立場や異なる考えを尊重して課題を解決するために、論拠の妥当性を判断しながら話すことができる。 3　主張や感動などが伝わるように、論理の構成や描写の仕方などを工夫して表現できる。				
学習の進め方	・国語の基本や構成を学習しながら、相手や目的に応じて文章を書く。 ・文章を読み、意見を聞くことで、自分の考えを深める。 ・自分の意見やスピーチ・論議などの場で発表する。				
学習の留意点	・授業規律をしっかりと守り、集中して積極的に授業に参加すること。 ・ノートを活用できるように板書を書き写し、提出物は期限までに必ず提出すること。 ・教科担任の説明と指示・級友の発表を集中して聞くこと。 ・意見発表・グループ活動などには特に真剣に取組むこと。				

評価規準	観点別	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
	評価の観点	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。	目的や場に応じて効果的に話し的確に聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えを深め、発展させている。	相手や目的、意図に応じた適切かつ効果的な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させている。		言語の特徴やきまり、役割などについての理解を深め、知識を身に付けている。
	比重	20%	30%	30%		20%
	評価方法	○関心・意欲・態度…課題に取り組む姿勢などをレポートや日々の授業の中で評価する。 ○話す・聞く能力……日々の授業での取組で評価する。 ○書く能力……定期考査や日々の授業での取組、ワークシート等での取組で評価する。 ○知識・理解……定期考査や小テストなどで評価する。				

単元	頁	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	定期考査 前期 中間	定期考査 前期 期末	定期考査 後期 中間	定期考査 後期 期末
表現力を培う　1　書いて伝える	9	■	■	■										■	■	■	■
表現を楽しむ　5　声とコミュニケーション	97				■	■	■								■		
表現力を培う　相手や場面に応じた会話	118							■								■	
表現力を培う　プレゼンテーションの工夫	122							■	■	■						■	
表現力を培う　6　会話・議論・発表	117								■	■	■						■

単元名と単元内容	配当時間	学習内容・学習のポイント	評価規準				備考
			a	b	c	e	(到達目標・評価の観点・留意点など)
表現力を培う　1 書いて伝える	15	文章を書くための基本を復習し、目的に応じた適切な文章を書けるようにする。 様々な表現方法について学習し、実際に文章を書く際に使えるようにする。	○		○	○	様々な表現方法を用いて適切な文章を書く。
表現を楽しむ　5 声とコミュニケーション	15	発表やプレゼンテーション、スピーチなどにおいて効果的な話し方を学習し、実際に使いこなすことができるようにする。	○	○		○	様々な表現方法を用いて適切な文章を書き、他者に自己の意見が的確に伝わるよう、話し方の工夫ができる。
表現力を培う　相手や場面に応じた会話	15	様々な場面や相手を想定して、それぞれに合った話し方を学び、効果的に表現できるようにする。	○	○		○	様々な表現を用いて場面に応じた適切な文章を書き、それぞれに相応しい話し方を使い分けることができる。
表現力を培う　プレゼンテーションの工夫	16	プレゼンテーションに必要な原稿、資料等の効果的な作成方法、本やインターネットの活用の仕方や要点を踏まえた説明の仕方について学ぶ。 学んだ内容を基にグループでプレゼンテーションをする。	○	○	○	○	伝えたい内容を適切に表現するための技法を習得し、発表資料を作る際に活用することができる。
表現力を培う　6 会話・議論・発表	20	テーマに沿ってグループで話し合い、自分の持っている知識や調べたことを用いて１つのものを作り上げる。 様々な表現方法を用いて、グループで作り上げたものについてプレゼンテーションをする。	○	○	○	○	伝えたい内容を適切に表現するための技法を再確認し、文章の構成や話し方、発表資料を考える際に工夫しながら用いることができる。

評価規準：a 関心・意欲・態度　b 話す・聞く能力　c 書く能力　d 読む能力　e 知識・理解

教科	科目	学年	履修形態	単位数	その他
数学	数学Ⅲ	3	選択Ⅳ・Ⅴ	5	

使用教科書	数研出版「新編　数学Ⅲ」	使用副教材	数研出版「サクシード数学Ⅲ」
科目の目標	数学的な見方や考え方を積極的に活用して、論理的思考力を身に付ける。 また、大学入試で対応する力を身に付ける。		
学習の到達目標	1　高校数学における基礎的な知識や技能を身に付け、活用することができる。 2　世の中で見られる事象を数学的に考察し処理することができる。 3　自分の考えを論理的に組み立て、わかりやすく表現することができる。		
学習の進め方	・２年次までに学んだ「数学Ⅰ・Ⅱ・Ａ・Ｂ」の解法を身に付けておくこと。 （問題を演習して考え方や解き方を身に付ける） ・教科書例題の問題演習を中心に進める。 ・予習はせず、復習を中心に行うこと。授業内容を問題集の演習を通して理解しているか確認すること。 ・受験で必要な生徒は、さらに内容を深めるため、参考書などを購入し、演習すると良い。		
学習の留意点	・授業規律をしっかりと守り、真剣かつ積極的に授業に参加すること。 ・授業内容を復習し、問題演習を怠らないこと。不明箇所は質問して理解しようとすること。 ・課題提出を徹底し、期限内に提出すること。 ・各単元の理解を深めるため、講習や添削指導で扱うことがある。		

評価規準	観点別	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	技能	知識・理解
	評価の観点	数学の論理や体系に関心を持っている。 事象の問題解決に数学を活用し、数学的論拠に基づいて判断しようとしている。	基礎的･基本的な技能を活用しながら、論理的に考察し、表現することができる。 事象の問題解決において、思考の過程を振り返り、論理立てて考えることができる。	数量や図形など､事象を数学的に表現･処理する仕方を身に付けている。	数量や図形に関する基礎的・基本的な概念や原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。
	比重	20%	30%	20%	30%
	評価方法	○関心・意欲・態度・・・授業中の発言、課題に対する取組など、積極的に数学を学ぼうとする姿勢を評価 ○数学的な見方や考え方・・・各種考査・問題集の解答状況、板書ノート・提出物の内容を論理立てて考えているかを評価 ○数学的な技能・・・各種考査・問題集の解答状況から表現・処理する仕方を身に付けているかを評価 ○知識・理解・・・各種考査・問題集の解答状況から概念を理解し、知識を身に付けているかを評価 ※各種考査は定期考査や単元テスト、長期休業明け課題テスト、授業内における小テストを指している。			

単元	頁	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	定期考査 前期 中間	定期考査 前期 期末	定期考査 後期 中間	定期考査 後期 期末
第１章　複素数平面	10	■												■			
第２章　式と曲線	33	■												■			
第３章　関数	76	■												■			
第４章　極限	92		■											■			
第５章　微分法	136			■	■										■		
第６章　微分法の応用	166				■										■		
第７章　積分法とその応用	198				■	■	■								■		
大学入試問題演習								■	■	■	■					■	■

単元名と単元内容	配当時間	学習内容・学習のポイント	評価規準			
			a	b	c	d
第１章　複素数平面						
１．複素数平面	1	複素数を図形的に表現することに興味・関心を持とうとしている。	○		○	
２．複素数の和と差	1	複素数の加法・減法を理解している。		○		○
３．複素数の極形式	2	複素数が絶対値と偏角で表されることを考察しようとしている。	○	○		
４．ド・モアブルの定理	1	ド・モアブルの定理の意味を理解している。			○	○
５．複素数と平面図形	2	複素数平面上の線分の内分点・外分点を理解している。		○		○
第２章　式と曲線						
１．放物線	1	２次曲線を解析幾何学的な方法で考察することができる。	○			○
２．楕円	2	軌跡の考え方を利用して、楕円の方程式を導くことができる。軌跡の考	○		○	
３．双曲線	2	え方を利用して、双曲線の方程式を導くことができる。曲線Ｆ（ｘ、ｙ）	○	○		
４．２次曲線の平行移動	2	＝０を平行移動できる。		○		○
５．２次曲線と直線	2	２次曲線と直線の共有点の個数で調べることができる。	○		○	
６．曲線の媒介変数表示	2	媒介変数で表された曲線について、興味・関心を持とうとしている。	○			○
７．極座標と極方程式	2	いろいろな座標系を使って座標上の点を表すことができる。	○	○		
第３章　関数						
１．分数関数	2	分数関数のグラフを考察しようとする。	○	○		
２．無理関数	2	無理関数 $y=\sqrt{x}$ のグラフを放物線の一部として理解できる。		○	○	
３．逆関数と合成関数	2	逆関数、合成関数の考え方に興味・関心を示す。	○			○
第４章　極限						
第１節　数列の極限						
１．数列の極限	2	簡単な無限数列の極限を、グラフなどで考察しようとしている。	○		○	
２．極限の計算	2	収束する数列の極限を求めることができる。	○			○
３．無限等比数列	2	無限等比数列の極限を考察することができる。		○	○	
４．無限級数	3	数学的に「項を無限に加える」ということを理解できる。	○			○
第２節　関数の極限						
５．関数の極限	3	簡単な関数の極限を、グラフなどで直観的に考察しようとしている。	○	○		
６．いろいろな関数の極限	2	指数関数、対数関数の極限が求められる。		○		○
７．関数の連続性	2	様々な関数の連続性、不連続性を判定することができる。	○		○	
第５章　微分法						
１．微分係数と導関数	1	微分係数の図形的意味を考察しようとする。	○		○	
２．積・商の導関数	1	積の導関数の公式を定義に基づいて証明できる。	○	○		
３．合成関数と逆関数の微分法	1	合成関数の微分法を定義に基づいて証明できる。		○		○
４．三角関数の導関数	1	定義に基づいて、sinx の導関数を求めることができる。		○	○	
５．指数関数の導関数	1	自然対数 e を考える必要性に興味をもち、考察しようとしている。	○		○	
６．対数関数の導関数	1	対数関数の導関数を求めることができる。		○		○
７．第ｎ次導関数	1	種々の関数の高次導関数を求めることができる。	○			○
８．x、y で定められる関数の導関数	1	方程式 F(x、y)＝０を関数(陰関数)とみる考え方を理解している。		○	○	
９．媒介変数で表された関数の導関数	1	媒介変数表示の利便さを理解している。		○		○
第６章　微分法の応用						
１．接線の方程式	2	微分係数の意味を理解しており、接線の方程式が求められる。				○
２．平均値の定理	1	平均値の定理に興味をもち、図形的意味を考察しようとしている。	○		○	
３．関数の増減	1	関数の増減表を書くことがでる。		○		○
４．関数の極大・極小	1	関数の極値の問題を、導関数を用いて調べ、解決しようとする。	○	○		
５．関数の最大・最小	2	関数の最大値・最小値の問題を求めることができる。	○		○	
６．関数のグラフ	3	第２次導関数の符号で曲線の凹凸が判定できる。		○		○
７．不等式の証明	1	不等式を関数的視点で捉え、微分法を利用して解決できる。	○	○		
第７章　積分法とその応用						
第１節　不定積分						
１．不定積分とその基本性質	2	積分法が微分法の逆演算であることを理解している。		○	○	
２．置換積分法と部分積分法	4	合成関数の微分の逆演算として、置換積分法を理解している。		○	○	
３．いろいろな関数の不定積分	2	様々な工夫によって関数の不定積分を求めることができる。	○		○	
第２節　定積分						
４．定積分とその基本性質	2	種々の関数の定積分の計算方法を理解している。		○		○
５．定積分の置換積分法と部分積分法	4	置換積分法により、複雑な関数の定積分を求めることができる。区分求	○		○	
６．定積分の応用	3	積法に興味・関心を持とうとしている。	○	○		
第３節　積分法の応用						
７．面積	4	直線や曲線で囲まれた部分の面積を求めることができる。	○		○	
８．体積	4	体積 V(x)と断面積 S(x)の関係について考察できる。	○			○
９．速度と道のり	4	点の速度と位置の変化・道のりの関係について興味を持とうとしてい	○	○		
10．曲線の長さ	4	る。。		○	○	
		媒介変数表示された曲線の長さを求めることができる。				
大学入試問題演習	40		○	○	○	○

評価規準：a 関心・意欲・態度　b 数学的な見方や考え方　c 数学的な技能　d 知識・理解

教科	科目	学年	履修形態	単位数	その他
数学	数学研究	3	選択Ⅳ・Ⅴ	5	

使用教科書		使用副教材	数研出版 「改訂版トライ EX 数学演習Ⅰ・A＋Ⅱ・B　受験編」
科目の目標	・教科書や問題集による演習を通して、２年次までの学習内容を復習し、技能の習熟を図る。 ・習得した知識を応用し、理解を深める。		
学習の到達目標	1　知識・技能を用いて、問題解決に使用することができる。 2　習得した知識を活用し、問題に応用することができる。 3　数学のよさを認識し、積極的に活用しようとする。		
学習の進め方	・１・２年次に学んだ「数学Ⅰ・A・Ⅱ」の内容を確認しながら進める。 （説明やまとめの後に、発展的な問題を演習する） ・センター試験レベルの問題を使用し、演習を通して考え方を身に付ける。 ・予習については、１・２年次の内容を問題演習を通して確認する。 ・復習については授業内容を理解しているか、問題集の演習を通して確認する。 ・主に問題演習を主に行い、必要であれば追加課題を出題する。 ・受験科目として「数学」を使用する場合、自学自習を行い、授業内容を深める。		
学習の留意点	・授業規律をしっかりと守り、真剣かつ積極的に授業に参加すること。 ・授業内容を復習し、問題演習を怠らないこと。不明箇所は質問して理解しようとすること。 ・課題は期限内に提出すること。 ・センター試験や２次試験で「数学」が必要な生徒は参考書などを購入し、問題演習を通して学習内容を深めること。 ・進度に合わせ、小テスト等を行う。 ・「数学 B」や応用問題は、講習や個別指導で扱う。 ・数学は習熟度別にクラスを分けて授業を行い、それぞれの進路を考慮した学習をする。		

評価規準	観点別	関心･意欲･態度	数学的な見方や考え方	技能	知識・理解
	評価の観点	数学の論理や体系に関心を持っている。 事象の問題解決に数学を活用し、数学的論拠に基づいて判断しようとしている。	基礎的･基本的な技能を活用しながら、論理的に考察し、表現することができる。 事象の問題解決において、思考の過程を振り返り、論理立てて考えることができる。	数量や図形など、事象を数学的に表現･処理する仕方を身に付けている。	数量や図形に関する基礎的・基本的な概念や原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。
	比重	20%	30%	20%	30%
	評価方法	○関心・意欲・態度・・・授業中の発言、課題に対する取組など、積極的に数学を学ぼうとする姿勢を評価 ○数学的な見方や考え方・・・各種考査・問題集の解答状況、板書ノート・提出物の内容を論理立てて考えているかを評価 ○数学的な技能・・・各種考査・問題集の解答状況から表現・処理する仕方を身に付けているかを評価 ○知識・理解・・・各種考査・問題集の解答状況から概念を理解し、知識を身に付けているかを評価 ※各種考査は定期考査や単元テスト、長期休業明け課題テスト、授業内における小テストを指している。			

単元	頁	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	定期考査 前期 中間	定期考査 前期 期末	定期考査 後期 中間	定期考査 後期 期末
数と式	8	■												■			
２次関数	24	■												■			
データの分析	58	■												■			
論理と集合	18	■	■											■			
場合の数	68		■											■			
確率	72		■	■										■	■		
平面図形	84			■											■		
図形と計量	44			■	■										■		
三角関数	128				■	■										■	
指数関数	140						■									■	
対数関数	144						■									■	
微分法	152							■									■
積分法	158							■									■
大学入試過去問演習								■	■	■	■						■

単元名と単元内容	配当時間	学習内容・学習のポイント	評価規準			
			a	b	c	d
式の計算（1）	2	式の展開や因数分解をすることができる。	○		○	
式の計算（2）	1	平方根の計算や有理化をすることができる。	○		○	
	1	絶対値の計算を理解することができる。	○	○		○
１次不等式の解法	1	１次不等式、連立不等式を解くことができる。	○		○	
	1	絶対値の入った１次不等式を理解することができる。	○	○		○
集合	1	集合の意味を理解し、集合の関係について考えることができる。	○	○		○
命題と論証	2	命題の論証法を理解し、証明に生かすことができる。	○	○		
２次関数	2	２次関数のグラフの性質を理解し、グラフを書くことができる。	○		○	
	1	グラフの移動について理解することができる。	○	○		
２次関数の最大・最小	2	２次関数のグラフを書き、最大・最小を求めることができる。	○			○
	2	複雑な関数を文字に置き換え、簡単にして解くことができる。	○	○		○
	1	係数に文字が入った最大・最小を理解することができる。	○	○	○	
２次方程式・２次不等式	2	２次方程式を解くことができる。	○		○	
	1	２次関数を利用し、２次不等式を解くことができる。	○	○		
	1	方程式の解の個数について判別することができる。	○			○
２次関数の種々の問題	2	解の個数とグラフの関係について理解することができる。	○	○		○
三角比の基本	2	三角比の値を求めることこができる。	○		○	○
三角比と図形（1）	2	定理を利用し、未知の辺、角度を求めることができる。	○	○	○	
三角比と図形（2）	2	三角形の面積を求めることができる。	○		○	○
	1	面積を利用し、辺や内接円の半径を求めることができる。	○	○	○	
三角比と図形（3）	2	三角比を円や空間図形に利用することができる。	○	○		○
データの分析（1）	2	データの散らばりについて考えることができる。	○	○	○	
データの分析（2）	1	分散や標準偏差からデータの散らばりを比較することができる。	○	○	○	
データの分析（3）	1	２つのデータの関係性について考えることができる。	○	○	○	
場合の数・順列（1）	2	樹形図や順列について理解することができる。	○	○		○
	1	各事象の場合の数を求めることができる。	○	○	○	
順列（2）　・　組合せ	2	組合せを用いて、各事象の場合の数を求めることができる。	○	○	○	
確率（1）	1	確率の定義と性質について理解することができる。	○	○	○	
確率（2）	2	独立、反復試行、条件付き確率について計算することができる。	○		○	
図形の性質（1）	1	図形の性質から、図形上の未知の値を求めることができる。	○		○	
図形の性質（2）	2	空間図形の性質について理解することができる。	○	○		
三角関数（1）	2	三角比の性質、三角関数について理解することができる。	○		○	○
三角関数（2）	2	加法定理を使い、三角比の値を求めることができる。	○	○		○
指数関数	2	指数法則を利用し、計算することができる	○		○	
	2	指数関数のグラフを描くことができる。	○	○		
	2	指数関数を使って方程式・不等式を解くことができる	○		○	○
対数関数	2	対数の計算をすることができる。	○		○	
	2	対数関数のグラフを描くことができる。	○	○		
	2	対数関数を使って方程式・不等式を解くことができる。	○		○	○
導関数と接線	2	導関数の定義を使って計算することができる。	○	○	○	
	2	接線の方程式を求めることができる。	○		○	
関数と極大・極小	2	導関数を用いて、極大値・極小値を求めることができる。	○		○	○
	2	３次関数のグラフを描くことができる。	○		○	
関数の最大・最小	2	複雑な関数の最大値、最小値を求めることができる。	○	○	○	
微分法の応用	2	関数と方程式・不等式の関係を理解することができる。	○		○	○
不定積分・定積分	2	積分の性質を理解することができる。	○			○
面積の計算（1）	2	面積の計算をすることができる。	○		○	
面積の計算（2）	2	グラフの形や条件を使って方程式を立てることができる。	○	○	○	
大学入試問題演習	54		○	○	○	○

評価規準：a 関心・意欲・態度　b 思考・判断・表現　c技能　d知識・理解

教科	科目	学年	履修形態	単位数	その他
芸術	音楽Ⅱ	3	選択	3	

使用教科書	教育出版「tuttiⅡ」	使用副教材	教育芸術社「ザ・ベーシック・オブ・ミュージック」 ドレミ楽譜「高校生のための新楽典ワーク」
科目の目標	音楽の諸活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現の能力と主体的な鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化について理解を深める。		
学習の到達目標	1　歌唱や楽器演奏などによる表現活動及び鑑賞活動の幅広い学習を通して、音楽を愛好して音楽に対する興味・関心を高める。 2　曲種に応じた発声や演奏法と表現上との関わりを理解し、表現を工夫する。 3　音楽を形づくっている要素とそれらの働きを感受して演奏・鑑賞することができる。		
学習の進め方	音楽Ⅰで学習した内容の復習をしながら、歌唱・器楽・創作・鑑賞について基礎的な理解を図り発展的な内容に取組む。また、習得した音楽の知識を基に、演奏技術の習得を目指す。		
学習の留意点	1　ペアワークやグループワーク等の表現活動や授業全般に積極的に取り組むこと。 2　楽曲に応じて実技試験を課します。		

評価規準	観点別	音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫と知識・理解	音楽表現の技能	鑑賞の能力
	評価の観点	音楽活動を通して音楽を愛好し、音や音楽に対する興味･関心を持つ。音楽活動を主体的に行おうとする。	歌唱･器楽それぞれの演奏技術･表現方法を工夫し、表現することができる。 楽典や楽曲についての理解を深めることができる	歌唱･器楽それぞれの演奏法の特徴を理解し､表現するための技能を習得する。	多様な音楽の構成要素を感じ取り､それらを感受しながら歴史的背景とともに音楽の理解を深め、鑑賞する。
	比重	20%	35%	30%	15%
	評価方法	○音楽への関心・意欲・態度・・・・・・・・・授業態度・レポート・振り返りシート ○音楽表現の創意工夫と知識・理解・・・・・定期考査・実技試験 ○音楽表現の技能・・・・・・・・・・・・・定期考査・実技試験 ○鑑賞の能力・・・・・・・・・・・・・・・定期考査・鑑賞レポート			

単　元	頁	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	定期考査 前期 中間	定期考査 前期 期末	定期考査 後期 中間	定期考査 後期 期末
[ソルフェージュ]	—	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■				■		
[歌唱] 声の世界～日本の歌～	4	■	■												■		
[歌唱]　声の世界～西洋の歌～	26		■	■											■		
[合唱]	49			■	■										■		
[音楽理論]	—					■	■								■		
[器楽]リコーダーアンサンブル	—						■	■									
[器楽]ギター独奏、弾き語り	—							■	■								
[歌唱・器楽]研究演奏	—									■	■						

単元名と単元内容	配当時間	学習内容・学習のポイント	評価規準				備考
			a	b	c	d	(到達目標・評価の観点・留意点など)
[歌唱] 声の世界 ～日本の歌～	8	・ありがとう ・川の流れのように ・いつも何度でも ・小さな空 ・からたちの花	○	○	○	○	・曲想を歌詞の内容や楽曲の背景と関わらせて理解し、イメージを持って歌う。 ・曲種に応じた発声の特徴と表現上の関わりを理解し、表現を工夫して歌う。 ・音楽を形づくっている要素とそれらの働きを感受して歌う。
[歌唱] 声の世界 ～西洋の歌～	8	・Ave Maria ・Core 'ngrato ・Amazing grace ・Im wunder shonen monat mai	○	○	○	○	
[合唱]	10	・Ave verum corpus ・J-POP の合唱	○	○	○	○	
[音楽理論]	10	・楽典の理解 ・コードネームについて	○	○			・楽譜についての理解を深める ・コードネームについて理解する。
[器楽] ・リコーダーアンサンブル	15	・リコーダー二重奏 ・リコーダー四重奏	○	○	○		・楽譜についての理解を深める ・コードネームの構造と種類について理解する。
[器楽] ・ギター独奏 ・ギター弾き語り	15	・ギター独奏 「愛のロマンス」 ・ギター弾き語り 「選択曲」	○	○	○		・曲想を楽曲の背景と関わらせて理解し、イメージをもって演奏する。 ・楽器の音色や奏法の特徴と表現上の効果との関わりを感受し、表現を工夫して演奏する。 ・器楽の特徴と表現上の効果との関わりを理解し、表現を工夫して演奏する。 ・音楽を形づくっている要素とそれらの働きを感受して演奏する。
[歌唱・器楽] ・研究演奏	15	各自選択曲	○	○	○		

a 音楽への関心・意欲・態度 b 音楽表現の創意工夫と音楽の知識・理解 c 音楽表現の技能 d 鑑賞の能力

教科	科目	学年	履修形態	単位数	その他
地理歴史	地理研究	3	選択Ⅴ	2	

使用教科書	帝国書院「新詳地理Ｂ」 帝国書院「標準高等地図 -地図でよむ現代社会-」	使用副教材	なし
科目の目標	現代社会の諸地域の自然と人口、経済、政治、文化、宗教、歴史などの基本的事項を学習し、国際理解を深めるとともに、国際的課題を考察することで、国際社会で生きる者として必要な学力を育成する。		
学習の到達目標	世界諸地域の自然と人口、経済、政治、文化、宗教、歴史などについて、地域性や歴史的背景を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を深める。		
学習の進め方	現代世界の特色と諸課題を地理的に学ぶ。課題を探究する学習の中で、様々な情報を活用しながら事象を説明したり、論述するなどの学習を行う。分野の内容や進度等、状況に応じてプリント・資料配布で授業に代える場合もある。		
学習の留意点	必ず黒板の内容はノートに書き写し、教員の話をしっかり聞くこと。また、説明がわからない時や、漢字が読めない時など、困った場合は遠慮せずに質問すること。調査や発表についても主体的に取り組み、自分の意見や考えを積極的に発表すること。		

評価規準	観点別	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
	評価の観点	世界地理に対する関心と課題意識を高め,それを意欲的に追究し,国際社会に主体的に生きる日本国民としての態度を身に付けようとしている。	世界地理の基本事項から課題を見出し､歴史的､経済的､文化的視野に立って多面的・多角的に考察できる。	世界地理に関する情報を収集､活用することで地理的事象を研究することができる。その内容を適切に表現､まとめることができる。	世界地理についての基本的事項を総合的に理解し､その知識を身に付けている。
	比重	10%	30%	10%	50%
	評価方法	○関心・意欲・態度・・・課題に取り組む姿勢、レポートやノートテイキング、日々の授業の中で評価する。 ○思考・判断・表現・・・定期考査や日々の授業での取組、ノートやワークシートなどの取組で評価する。 ○技能・・・・・・・・・定期考査や日々の授業での取組、グループ発表などで評価する。 ○知識・理解・・・・・・定期考査や日々の学習課題で評価する。			

単元	頁	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	定期考査 前期 中間	定期考査 前期 期末	定期考査 後期 中間	定期考査 後期 期末
1　人口・食糧問題	171	■												■			
2　都市・居住問題	191		■											■			
3　環境・エネルギー問題	135		■											■			
4　民族・領土問題	215		■											■			
5　世界地域について																	
（1）アジア	232			■										■			
（2）アフリカ	270				■										■		
（3）ヨーロッパ	277				■										■		
（4）ロシア	289					■									■		
（5）南北アメリカ	295					■									■		
（6）オセアニア	316						■								■		
6　日本の諸地域について																	
（1）北海道・東北							■									■	
（2）北陸・甲信越								■								■	
（3）関東								■								■	
（4）東海									■							■	
（5）近畿									■							■	
（6）中国・四国										■							■
（7）九州・沖縄										■	■						■

単元名と単元内容	配当時間	学習内容・学習のポイント	評価規準				備考
			a	b	c	d	（到達目標・評価の観点・留意点など）
1　人口・食糧問題	4	人口や少子高齢化問題など、各国の状況について学習する。	○	○	○	○	
2　都市・居住問題	4	各国の産業や人々の生活、人口移動や過疎・過密化現象などについて学習する。	○	○	○	○	
3　環境・エネルギー問題	4	環境問題の種類・環境問題の歴史的経緯・世界的な対策と取組や新しいエネルギーについて学習する。	○	○	○	○	
4　民族・領土問題	4	世界の民族・領土問題や日本周辺の諸課題について学習する。	○	○	○	○	
5　世界地域について （1）アジア （2）アフリカ （3）ヨーロッパ （4）ロシア （5）南北アメリカ （6）オセアニア	19	世界諸地域の自然と人口、経済、政治、文化、宗教、歴史などの基本的な地理的事象について学習する。	○	○	○	○	調べ学習やレポート作成、グループ学習なども行います。
6　日本の諸地域について （1）北海道・東北 （2）北陸・甲信越 （3）関東 （4）東海 （5）近畿 （6）中国・四国 （7）九州・沖縄	19	日本の諸地域の自然と人口、産業、文化、歴史などの基本的な地理的事象について学習する。	○	○	○	○	調べ学習やレポート作成、グループ学習なども行います。

評価規準：a. 関心・意欲・態度　b. 思考・判断・表現　c. 技能　d. 知識・理解

教科	科目	学年	履修形態	単位数	その他
数学	数学研究	3	選択Ⅳ・Ⅴ	5	

使用教科書	なし	使用副教材	数研出版 「改訂版トライ EX 数学演習Ⅰ・A＋II・B　受験編」
科目の目標	・教科書や問題集による演習を通して、２年次までの学習内容を復習し、技能の習熟を図る。 ・習得した知識を応用し、理解を深める。		
学習の到達目標	1　知識・技能を用いて、問題解決に使用することができる。 2　習得した知識を活用し、問題に応用することができる。 3　数学のよさを認識し、積極的に活用しようとする。		
学習の進め方	・１・２年次に学んだ「数学Ⅰ・A・Ⅱ」の内容を確認しながら進める。 （説明やまとめの後に、発展的な問題を演習する） ・センター試験レベルの問題を使用し、演習を通して考え方を身につける。 ・予習については、１・２年次の内容を問題演習を通して確認する。 ・復習については授業内容を理解しているか、問題集の演習を通して確認する。 ・主に問題演習を主に行い、必要であれば追加課題を出題する。 ・受験科目として「数学」を使用する場合、自学自習を行い、授業内容を深める。		
学習の留意点	・授業規律をしっかりと守り、真剣かつ積極的に授業に参加すること。 ・授業内容を復習し、問題演習を怠らないこと。不明箇所は質問して理解しようとすること。 ・課題は期限内に提出すること。 ・センター試験や２次試験で「数学」が必要な生徒は参考書などを購入し、問題演習を通して学習内容を深めること。 ・進度に合わせ、小テスト等を行う。 ・「数学 B」や応用問題は、講習や個別指導で扱う。		

評価規準	観点別	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	技能	知識・理解
	評価の観点	数学の論理や体系に関心を持っている。 事象の問題解決に数学を活用し、数学的論拠に基づいて判断しようとしている。	基礎的･基本的な技能を活用しながら、論理的に考察し、表現することができる。 事象の問題解決において、思考の過程を振り返り、論理立てて考えることができる。	数量や図形など、事象を数学的に表現･処理する仕方を身につけている。	数量や図形に関する基礎的・基本的な概念や原理・法則などを体系的に理解し、知識を身につけている。
	比重	20%	30%	20%	30%
	評価方法	○関心・意欲・態度・・・授業中の発言、課題に対する取組など、積極的に数学を学ぼうとする姿勢を評価 ○数学的な見方や考え方・・・各種考査・問題集の解答状況、板書ノート・提出物の内容を論理立てて考えているかを評価 ○数学的な技能・・・各種考査・問題集の解答状況から表現・処理する仕方を身につけているかを評価 ○知識・理解・・・各種考査・問題集の解答状況から概念を理解し、知識を身につけているかを評価 ※各種考査は定期考査や単元テスト、長期休業明け課題テスト、授業内における小テストを指している。		

単元	頁	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	定期考査 前期 中間	定期考査 前期 期末	定期考査 後期 中間	定期考査 後期 期末
数と式	8	■												■			
２次関数	24	■												■			
データの分析	58	■												■			
論理と集合	18	■	■											■			
場合の数	68		■											■			
確率	72		■	■										■	■		
平面図形	84			■											■		
図形と計量	44			■	■										■		
三角関数	128				■	■										■	
指数関数	140						■									■	
対数関数	144						■									■	
微分法	152							■									■
積分法	158							■									■
大学入試過去問演習								■	■	■	■						■

単元名と単元内容	配当時間	学習内容・学習のポイント	評価規準			
			a	b	c	d
式の計算（1）	2	式の展開や因数分解をすることができる。	○		○	
式の計算（2）	1	平方根の計算や有理化をすることができる。	○		○	
	1	絶対値の計算を理解することができる。	○	○		○
１次不等式の解法	1	１次不等式、連立不等式を解くことができる。	○		○	
	1	絶対値の入った１次不等式を理解することができる。	○	○		○
集合	1	集合の意味を理解し、集合の関係について考えることができる。	○	○		○
命題と論証	2	命題の論証法を理解し、証明に生かすことができる。	○	○		
２次関数	2	２次関数のグラフの性質を理解し、グラフを書くことができる。	○		○	
	1	グラフの移動について理解することができる。	○	○		
２次関数の最大・最小	2	２次関数のグラフを書き、最大・最小を求めることができる。	○			○
	2	複雑な関数を文字に置き換え、簡単にして解くことができる。	○	○		○
	1	係数に文字が入った最大・最小を理解することができる。	○	○	○	
２次方程式・２次不等式	2	２次方程式を解くことができる。	○		○	
	1	２次関数を利用し、２次不等式を解くことができる。	○	○		
	1	方程式の解の個数について判別することができる。	○			○
２次関数の種々の問題	2	解の個数とグラフの関係について理解することができる。	○	○		○
三角比の基本	2	三角比の値を求めることこができる。	○		○	○
三角比と図形（1）	2	定理を利用し、未知の辺、角度を求めることができる。	○	○	○	
三角比と図形（2）	2	三角形の面積を求めることができる。	○		○	○
	1	面積を利用し、辺や内接円の半径を求めることができる。	○	○	○	
三角比と図形（3）	2	三角比を円や空間図形に利用することができる。	○	○		○
データの分析（1）	2	データの散らばりについて考えることができる。	○	○	○	
データの分析（2）	1	分散や標準偏差からデータの散らばりを比較することができる。	○	○	○	
データの分析（3）	1	２つのデータの関係性について考えることができる。	○	○	○	
場合の数・順列（1）	2	樹形図や順列について理解することができる。	○	○		○
	1	各事象の場合の数を求めることができる。	○	○	○	
順列（2） ・ 組合せ	2	組合せを用いて、各事象の場合の数を求めることができる。	○	○	○	
確率（1）	1	確率の定義と性質について理解することができる。	○	○	○	
確率（2）	2	独立、反復試行、条件付き確率について計算することができる。	○		○	
図形の性質（1）	1	図形の性質から、図形上の未知の値を求めることができる。	○		○	
図形の性質（2）	2	空間図形の性質について理解することができる。	○	○		
三角関数（1）	2	三角比の性質、三角関数について理解することができる。	○		○	○
三角関数（2）	2	加法定理を使い、三角比の値を求めることができる。	○	○		○
指数関数	2	指数法則を利用し、計算することができる	○		○	
	2	指数関数のグラフを描くことができる。	○	○		
	2	指数関数を使って方程式・不等式を解くことができる	○		○	○
対数関数	2	対数の計算をすることができる。	○		○	
	2	対数関数のグラフを描くことができる。	○	○		
	2	対数関数を使って方程式・不等式を解くことができる。	○		○	○
導関数と接線	2	導関数の定義を使って計算することができる。	○	○	○	
	2	接線の方程式を求めることができる。	○		○	
関数と極大・極小	2	導関数を用いて、極大値・極小値を求めることができる。	○		○	○
	2	３次関数のグラフを描くことができる。	○		○	
関数の最大・最小	2	複雑な関数の最大値、最小値を求めることができる。	○	○	○	
微分法の応用	2	関数と方程式・不等式の関係を理解することができる。	○		○	○
不定積分・定積分	2	積分の性質を理解することができる。	○			○
面積の計算（1）	2	面積の計算をすることができる。	○		○	
面積の計算（2）	2	グラフの形や条件を使って方程式を立てることができる。	○	○	○	
大学入試問題演習	54		○	○	○	○

評価規準：a 関心・意欲・態度　b 数学的な見方や考え方　c 数学的な技能　d 知識・理解